

平成31年度使用小学校用教科用図書

調査報告書

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会

目 次

○国 語 (国 語)	1
○国 語 (書 写)	7
○社 会 (社 会)	14
○社 会 (地 図)	19
○算 数	22
○理 科	29
○生 活	35
○音 楽	43
○図画工作	46
○家 庭	49
○体 育 (保 健)	52

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員国語科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○国語を適切に表現するとともに、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるために、どのような工夫が見られるか。 ○思考力や想像力及び言語感覚を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○日常生活に生きて働く国語の知識・技能を習得できるように、どのような工夫がされているか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○言語活動を通して指導事項を指導するという視点をふまえ、課題解決的な学習となるよう単元構成にどのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○学習に対する必要感や有用感を持ち、伝え合うことのよさを実感できるようにどのような工夫が見られるか。 ＜言語感覚を養うための工夫＞ ○言葉の使い方の、正誤・適否・美醜について、感覚的にとらえることができるようにどのような工夫が見られるか。 ＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞ ○わが国の歴史の中で創造され、継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てるためにどのような工夫が見られるか。
	資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。
	表記・表現 ○漢字（新常用漢字を含む）・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	（全体的な特徴、その他）

項目	書名 新編 新しい国語 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかわり	○3領域1事項について、バランスよく配列されている。 ○巻頭で年間の見通しをもてるように工夫されている。 ○3領域の単元でつきたい力が明確にわかるように、単元のはじめに「ねらい」単元末に学習の重点となる「言葉の力」を明示されている。
特色	内 容 〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉 ○文法、語句、漢字等の言葉の学習が、小単元として年間を通し、定期的に触れるよう配置されている。 ○単元ごとに新しい漢字、読み替えの漢字、使えるようにしたい言葉が欄外に掲載され、漢字学習の必然性や言葉への意識化が工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉 ○全学年「国語のノートの作り方」を掲載し、学力の基盤としてノート作りを重視し、思いを表現するためのヒントが示されている。 ○詩、物語、説明的文章、読書単元、言語の小単元が、バランスよく配置されている。 〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉 ○「てびき」にねらいに則した学習課題を明示し、振り返りの観点はチェックで示し、注意を喚起できるように工夫されている。 〈言語感覚を養うための工夫〉 ○「伝統的な言語文化」に親しめるよう、「日本の言の葉」を各学年に2か所設定し、「日本語のしらべ」では、四季の言葉や詩歌が季節ごとに触れられるように工夫されている。 〈国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫〉 ○「つながる」では既習事項を想起させ、「ひろがる」では他教科等への応用のヒントがあり、国語を学ぶ意義を見いだせるように工夫されている。 ○「こんな本もいっしょに」で読書による学びの深化が図れるように工夫されている。 ○生活の場面に近い保健だより、広告、新聞等を取り上げ実生活に生かせるように工夫されている。
	資 料 ○付録の既習漢字については、音訓索引型採用のため一つしか読み方がわからなくても容易に活用でき、「とくべつな読み方」もまとめて抽出列挙し活用しやすい。 ○カラーユニバーサルデザインにも配慮し、やわらかいタッチの挿絵を採用している。写真や図表も効果的に採用されている。 ○裏表紙には、保護者へのメッセージを載せ、「共に学ぶ」ことを推奨している。
	表記・表現 ○紙面には、読みやすさを配慮した字詰め、フォントを採用し、ユニバーサルデザイン書体を使用している。 ○物語、説明文教材の脚注罫に、5行ごとの行数に加え、1行ごとにドットを示し、行数がわかりやすいように工夫されている。
総 括	○3領域1事項について、バランスよく配列され、学習目標、内容、過程が児童にもわかるように単元ごとに示されている。 ○「言葉の力のまとめ」各学年の学びをまとめて確認できるように工夫されている。 ○本編と付録の二部構成となっており、付録の充実が非常に図られている。 ○高学年では、中学生につながるよう、厚めの学年1冊の形式になっている。

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校国語 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下的小学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	○3領域1事項がバランスよく示され、それぞれについて、多様で具体性のある言語活動が適切に示されている。 ○すべての単元に学習の目標や学ぶ手立て、見通しが明確に示されている。 ○小学校6年間の発達の段階に即した教材が、系統的に示されている。 ○学年の発達の段階や学習内容に応じた読書活動が具体的に示されている。
特 色 内 容	〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉 ○単元ごとに、身に付けさせたい力や活動の手順、言語活動例が示されている。 ○第1学年上巻、巻頭の教材が動物の顔を指で押さえてページを開ける仕組みとなっており、10までの数を学習する前の入門期の児童の実態を考慮している。 〈思考力、判断力、表現力等の育成する工夫〉 ○学習過程における交流を意識した内容となっており、学習活動をとおして思考力・判断力・表現力を育成できるように示されている。 〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉 ○巻頭に「教科書の使い方」、単元ごとに「学習のてびき」が示されている。 ○学校図書館や地域の図書館の利用の仕方について示されており、主体的な学習活動を促すものとなっている。 ○地域の方々に案内状を書く活動(第3学年)など、地域との関わりを意識した内容が盛り込まれており、学習を実生活に生かすことができるように工夫されている。 〈言語感覚を養うための工夫〉 ○巻末の漢字一覧に、筆順と用例の他、日常で用いる未習の読み方も示している。 ○文法、語句、漢字などに対する関心を高めるための「漢字の部屋」「言葉のきまり」「言葉のいずみ」が小教材として扱われ、言語事項が整理して示されている。 〈国語に対する関心を深め国語を慎重する態度を育てるための工夫〉 ○昔話、俳句、短歌、百人一首、古典、漢詩など豊富な学習材を取り入れている。 ○単元ごとに、参考にしたい図書が示されている。
資 料	○第4学年では点字に触れて学べる付録が付いており、体感的に学習できる。 ○学習の前提となる、授業で用いる言葉が、「授業でつかうことば」「国語のカギ」として児童に分かりやすく示されている。 ○上下巻それぞれの巻末に、「保護者の方へ この教科書でめざすこと」欄が示されており、家庭学習を意識している。
表記・表現	○児童が学習のイメージを具体的にもてる写真が効果的に用いられている。 ○原作に準拠した言語表現が用いられている。 ○ルビが適切に用いられている。 ○手書き文字を意識した書体が用いられている。
総 括	○児童の発達の段階に応じた、多様な学習材が取り入れられている。 ○言語活動の手順や方法がわかりやすく示され、学び方を児童に身に付けさせることを意識した内容となっている。 ○学校での学習のみならず、家庭への啓発をも意識している。 ○上下巻に分けられており、児童が扱いやすい装丁となっている。

書名 項目	小学生の国語 15 三省堂
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○3領域1事項がバランスよく配置されている。 ○3領域1事項のそれぞれについて多様な言語活動が示されている。 ○年間を通し3領域の見通しと振り返りができるよう書き込みページがある。 ○各単元に学習の目標や手立てが示されるとともに、学習を振り返ることができるように工夫されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	〈基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫〉 ○漢字においては、前学年配当漢字と学年配当漢字が教材として、定期的に掲載されている。新出漢字は、単元の学習前に学習できるようになっている。 ○別冊の『学びを広げる』『言葉のポケット』において、語彙を増やしたり学習用語を身に付けたりできるように工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉 ○声を出して読み、読書生活を広げられるような教材から始まり、学年のまとめとして「書くこと」で自分を振り返ることができるようになっている。 ○単元ごとに、身に付けさせたい力や活動の手順、言語活動例が示されている。 〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉 ○教材の随所に「覚えておきましょう」、巻末に「『覚えておきましょう』のまとめ」を設けることで、学習の状況を振り返り確認できるようになっている。 〈言語感覚を養うための工夫〉 ○定期的に「わたしの本だな」で図書が紹介されているとともに「あまんさんの部屋」では、あまんきみこさんが各学年にふさわしいテーマに沿った本を紹介し、読書による学習の深化、拡充が図れるように工夫されている。 ○「読むこと」の教材として郷土料理や歴史上の人物を取り上げている。 ○2年生から各学年にを国語辞典の活用に関する教材が設定されている。 〈国語に対する関心を深め国語を慎重する態度を育てるための工夫〉 ○別冊の『学びを広げる』では、学習用語の説明や古典などの作品、発展教材など様々な教材を取り上げている。 ○別冊の『学びを広げる』では、学習用語の説明や古典などの作品、発展教材など様々な教材を取り上げている。また、3領域1事項について、内容、学校図書館の活用についての内容などが取り上げられている。 ○写真やイラストが多く使われている。 ○とめ、はね、はらいの明確な書体が用いられている。 ○すべての教材が偶数ページから始まり見開き教材の構成となっている。 ○文学教材においては、見開きページでの場面展開が行われている。
総 括	○第2学年から本編『小学生の国語』と付録『学びを広げる』の2冊構成となっている。 ○1年間を通して1冊にまとめていることで、年間を通しての見通しができるようになっている。 ○1教材1領域にねらいを焦点化されている。 ○新出漢字を単元の学習の前に位置付けるなど、教材の配列が工夫されている。

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○全単元に、単元の目標、学習のめあて、学習の手だてが明示され、目的と見通しをもたせるよう工夫されている。 ○導入・展開・活用と学習が進み、単元を貫く言語活動を意識した単元構成になっている。 ○「ここが大事」では、習得すべき大事な点が系統的に整理して示されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得する工夫＞ ○漢字の習得と定着のため、「漢字の広場」の学習が取り扱われている。 ○進出漢字はドリル形式で、既習した漢字は短文作りとして、設定されている。 ○語彙を増やすために、「脚注」「言葉」「言葉の木」「付録」が設定されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成する工夫＞ ○全学年で、詩・随筆・説明的文章・物語・読書教材・古典作品がバランスよく取り扱われている。 ○活動・作業の場で、観点や発言の参考になる具体的な発言例が示されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○「ふり返り」が示されており、単元の最後に単元に沿った自己評価ができるよう工夫されている。 ＜言語感覚を養うための工夫＞ ○各学年上巻では、情報活用のための読書教材が設定されている。 ○各学年下巻では、読書の世界を広げるさまざまな活動を紹介している。 ○全学年巻末に、「〇年生で読みたい本」というコーナーを設定し、読書への意欲・興味を高めている。 ＜国語に関する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞ ○伝統的な言語文化に親しむため、「日本の言葉」「伝統芸能」「古典」を取り上げている。 ○道徳教材との関連を図り、教材が設定されている。 資 料 ○説明的文章では、文章に即した写真が掲載されており、文章を読み取る手掛かりとなる。 ○付録では、「言葉」「文法」「〇〇の書き方」が取り上げられており、国語学習に関わる様々な指導事項や言語活動の充実が図れるよう工夫されている。 ○付録「本を読もう」が記載されており、すぐに活用しやすい。 表記・表現 ○文節での改行、行間を広くとり、読んだり、書き込んだりする活動がしやすいよう工夫されている。 ○メモやカードの例は色づけされていて、簡単に分かるよう配慮されている。 ○色だけではなく、形の上でも、識別できるよう配慮されている。
総 括	○学習の目的・学習の進め方が明確に示されている。 ○習得した学習内容を活用して、さらに学べるよう系統的な学習内容になっている。 ○言葉の学習や文章を書く学習では、視覚的に見やすく、学習内容が理解しやすいよう工夫されている。 ○単元を貫く言語活動を意識した単元構成になっている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員国語科（書写）調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○点画、文字の大きさや配列、書く速さなどに注意して書く能力を育成するために、どのような工夫が見られるか。 ○毛筆で、点画の書き方や筆圧に注意したり、穂先の動きと点画のつながりを意識したりして書く能力を育成するために、どのような工夫が見られるか。 ○国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書く学習について、学習過程にどのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○文字文化への興味・関心を持ち、日常生活に役立てようとする態度を養うために題材の選定にどのような工夫がされているか。 ＜硬筆と毛筆の関連＞ ○毛筆での学習を、硬筆の学習の基礎に結び付けるためにどのような工夫がされているか。
	資 料 ○学習効果を高めるため、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料の配置や手本との関連にはどのような工夫が見られるか。
	表記・表現 ○用語の使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	（全体的な特徴、その他）

教科（書写）

書名 項目	新編 新しい 書写 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○3段階の学習の手引きを設け、学習の流れが示されている。発達の段階に応じた学習課題を設定し、反復しながら学習が進められるように工夫されている。 ○穂先に色が付いた見本を示し、穂先の動きや筆圧、筆の流れを意識して書くことができるように工夫されている。 ○手紙の書き方やパンフレットの書き方など、日常生活や学習活動に生かせるように工夫されている。
特 色	内 容 <基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○低学年では、最初の「なぞってみよう」で学習のめあての意識化を図っている。 ○学習のめあてに合った吹き出しによるポイントの言葉や大事な部分の拡大表示が分かりやすい。 ○書き込み欄を増やし、練習帳機能を持たせている。 ○毛筆では、穂先に色が付いた見本で、穂先の向きや通り道、筆の流れが分かりやすく示されている。 <思考力、判断力、表現力等の育成する工夫> ○「調べよう」で書き方のポイントを調べさせることで学習のめあてを明確にし、「確かめよう」で正しい書き方のポイントを文章で示している。「広げよう」では、学習したことをほかの文字に応用し、活用できるように工夫されている。 ○手紙の書き方やパンフレットの書き方など、日常生活や学習活動に生かせるように工夫されている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「学習をふり返ろう」で、学習内容ごとのねらいにそった自己評価が発達段階に応じてできるようになっている。 ○3段階の学習の手引きを設け、学習の流れが示されている。 <硬筆と毛筆との関連> ○毛筆教材は硬筆から導入し、さらに毛筆教材の学習後に関連する硬筆教材が設定されている。 資 料 ○教材文に合った写真や挿絵があり、文の情景をイメージしやすい。 ○付録が充実していて、書写に対する興味・関心が高められるようになっている。 ○毛筆教材の左側に学習事項のインデックスを設定し、既習事項の確認をしながら学習が進められるようになっている。 表記・表現 ○児童に呼びかける親しみやすい表現をしている。 ○クリップ型アイコンを使って、教科との関連が示されている。 ○カラーバリアフリーの観点から、配色が適切である。 ○文節での改行を徹底し、読みやすくしている。
総 括	○判型の横幅をワイドにし、資料を豊富に盛り込んだり、書き込み欄を充実させたりしているのが、ほかの教科書にはない大きな特徴である。 ○毛筆教材の左端に学習事項のインデックスを設定することで、基礎的・基本的な学習事項を繰り返し確認できるようにしたり、主体的に学習を進めることができるようにしたりしている。

項目	書名 みんなと学ぶ 小学校書写 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○「観察」→「ためし書き」→「課題の見出し」→「練習」→「まとめ書き」→「評価」の一連の流れで、「どうすればできるようになるか」が明確に示されている。 ○穂先に色が付いた見本を示したり、穂先の向きをマークで示したりすることで、穂先の動きや筆圧、筆の流れを意識して書くことができるように工夫されている。 ○伝統的な言語文化の古典を全学年に掲載したり、獲得した技能を学習活動や日常生活において活用できるような具体的な例示を資料として多く掲載したりしている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○四つの部屋を明確に示し、正しい形で文字が書けるようにしている。 ○各学年とも巻頭で、姿勢・用具の基本を丁寧に扱っている。 ○単元の最初に学習のめあてを明確に示し、めあてに対応する評価欄で確実な技能の定着が図れるように配慮されている。 ○漢字の書き順を示したり、穂先の向きをマークで分かりやすく示したりしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「観察」→「ためし書き」→「課題の見出し」→「練習」→「まとめ書き」→「評価」の一連の流れを示し、自己課題解決学習が有効に進められるようになっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○すべての学年で学習の進め方を掲載している。 ○キャラクターの吹き出しの言葉が、児童の学習のめあての理解を助けられるようになっている。 ○手本は半紙原寸大で、めあてに即した解説がつけられている。 ○「かご書き」「ほね書き」の紹介があり、自分の課題に合わせた練習用紙の工夫がしやすくなっている。 ○6年生の最後に発展のページ（行書）がある。 ＜硬筆と毛筆との関連＞ ○毛筆学習材ごとに関連する硬筆の視写欄を設け、毛筆で学習したことを硬筆へ活用できるようにしている。 資 料 ○獲得した技能を学習活動や日常生活において活用できるような具体的な例示を資料として多く掲載している。 ○用紙や筆記具などができるまでを写真を使ってわかりやすく紹介し、文字文化について興味・関心がもてるように工夫されている。 ○詩歌や古典の一部などを載せたり、現存する筆文字などを提示したりしている。 表記・表現 ○巻頭で、分かりやすいマークを使用し、学習の進め方を説明している。 ○学習のめあてのマークが、学年ごとに違っている。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮した色使いになっている。
総 括	○学年ごとの書写の学習のめあてが巻頭で明確に示されており、その学年でどのような力を付けるのかが分かりやすい。 ○すべての学年で学習の進め方を掲載し、児童がめあてを的確にとらえ、めあてに向かって学習を進めることができるように学習方法が工夫されている。 ○キャラクターが登場するなど、明るく楽しい構成になっている。

教科（書写）

項目	書名 小学生の書写 15 三省堂
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○発達の段階に沿った内容と構成になっている。学習のポイントを児童に分かりやすい言葉で表現している。 ○3・4年生では、毛筆の学びの要点を覚えやすい簡潔な言葉で示し、5・6年生では、学習の仕組みを明示し、適切な書き方を考えながら書くことができるように工夫されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○硬筆と毛筆の入門期の「字を書くまで」の段階を丁寧に扱っている。硬筆では、指でなぞる活動を継続して取り上げている。毛筆では、腕の動かし方を体得できるように配慮されている。 ○正しい文字を書くためのポイントを児童に分かりやすい言葉で表現している。 ○3・4年生では、毛筆の学びの要点が覚えやすい簡潔な言葉で示されている。 （例：ほ先はいつも左はし） ○理解したことをすぐに書き込めるように、書き込み欄が随所に設定されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「考える」→「硬筆で書く」→「毛筆で書く」→「確かめ合う」という学習の仕組みになっており、適切な書き方を考えて書くことができるように工夫されている。 ○高学年では、目的や用紙に応じて判断しながら書く場が多く設定されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○学びの手順を分かりやすく示し、同じ学習過程を繰り返すことで、児童が学び方を理解し、主体的に取り組むことができるように工夫されている。 ○単元の最後に自己評価の欄を設け、意欲につながるように配慮されている。 ○6年に発展教材（行書）がある。 ＜硬筆と毛筆との関連＞ ○毛筆で理解したことを硬筆で確かめる学習過程を各教材に設定し、関連が図られている。 資 料 ○各学年の巻頭には、学年のねらいに沿った書写にかかわる資料を掲載していて、児童が興味・関心をもてるように配慮されている。 ○穂先の向きや腕の動かし方、筆圧などがイラストで分かりやすく示されている。 ○6年の巻末に「書写学習のヒント」が設定され、学習の振り返りに活用できる。 表記・表現 ○学習のポイントを児童に分かりやすい言葉で表現している。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮した色使いになっている。
総 括	○低学年・中学年・高学年それぞれの発達の段階に沿った内容と構成になるように工夫されている。特に高学年では、裏表紙に学習の仕組みが明確に示され、考えながら学習できるように工夫されている。 ○手紙やはがきを低学年から系統的に取り上げており、日常生活において活用できるような教材を意識的に取り入れている。

項目	書名 小学 書写 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○前学年の学習したことと関連させて学習内容が示されており、習熟の段階を意識して学習することができる。 ○学年で学習する漢字の一覧表や国語で示されている言語活動例が国語の指導内容に合わせて取り上げられている。 ○毛筆では、どの学年にも筆の動きが分かるように、穂先に朱墨を用いた見本が示されている。筆圧の段階が数字で示されていて分かりやすい。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○1年巻末の折り込みで、鉛筆の持ち方や姿勢の図が示されており、他のページを開きながら、いつでも開いて繰り返し確認ができるようになっている。 ○低学年では書き始めの点がどこからか、マスを部屋に例え意識できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「考えよう」では例えば穂先の向き、穂先の通道を考えさせ、大切なポイントが吹き出しで分かりやすく示されている。 ○「言葉の玉手箱」から、言葉の知識を得られ興味をもてるよう工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○学習の内容や手順が明確に示されているため、自主的な学習活動が臨める。 ○毛筆では、文字を正しく整えて書くためのポイントが示されているので、自分の字と比べて挑戦しようという意欲をもたせることができる。 ○「トライあんどチャレンジ」では、算数で生かす横書きや、生活科で生かす観察カードなど他教科での活用について示されている。 ＜硬筆と毛筆との関連＞ ○毛筆の学習には必ず、硬筆による「ためし書き」と「まとめ書き」が示され、毛筆で学習したことが硬筆に生かされるように工夫がされている。 資 料 ○写真が多く使用されており、文字や文から情景を想像しやすい。 ○毛筆の筆の動きが分かるように、細かく写真が掲載されている。 ○各学年の、硬筆教材に、国語の教科書に取り上げられている題材を用いている。 ○日本の文化などを取り上げ、毛筆がどのように日本文化に根差してきたのか興味をもたせている。 表記・表現 ○とめ・はらいの書き方で「びた」「すうっ」など擬音を用いているのでイメージしやすい。 ○見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れており、めあてとまとめで同じ色使いをしており、達成したかどうかを振り返りやすい。
総 括	○その時間に書く字の、特徴やポイントが見開きページに網羅されていて、様々な点を考えながら学習活動に取り組むことができる。 ○硬筆→毛筆→硬筆と関わらせながら学習することができ、文字を書くときの基礎的・基本的な指導がしっかりとおさえられている。 ○毛筆の穂先の動きが写真図解で細かく分かりやすく、自主的な学習が期待できる。

教科（書写）

項目	書名 書写 38 光 村
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○毛筆では、どの学年にも筆の動きが分かるように、穂先に色がついた見本が示されている。筆圧の段階が数字で示されていて分かりやすい。字と字の流れも線でつながれているので、筆運びが分かる。 ○筆・紙・墨・硯や鉛筆の作り方を示していて、これらが伝統的に受け継がれ、毛筆や硬筆で書く文化に寄与してきたことが分かる。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○各学年の巻頭に、図や写真を活用して姿勢や筆記具の持ち方を確認する場がある。 ○低・中学年では、オリジナルの唱え歌で基本が覚えやすく示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成する工夫＞ ○硬筆の教科書の表記はシンプルで絵からポイントを考えさせている。 ○課題解決型の学習が取り入れられており、児童の思考力を育むことができるように工夫されている。 ○形の整わない字から、正しい字形を考えさせるものや、クイズ形式で考えさせるものが多い。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○学習の進め方が示され、見通しをもって、自主的に学習を進めることができる。 ○試行錯誤を通して理解させるためにシールを用いて組み立てを考える工夫がされている。 ○学習のポイントを示す「たいせつ」や、理解を助け、課題解決のヒントを与えるキャラクター、活動内容が直感的に伝わるようにマークなど表記が工夫されている。 ＜硬筆と毛筆との関連＞ ○毛筆で学習したことを硬筆で生かせるように、第3学年以上の毛筆教材では、教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題が設定されている。高学年では、字の成長がわかるように、毛筆の学習の前に、書くマスも設定されている。 資 料 ○3年の毛筆の始まりでは、縦画、横画、曲がりなど基本となる筆使いが写真を用いて示されている。 ○国語の学習との関連をはかり、学習時期を合わせた題材が多い。 ○身に付けた書写力を日常に生かすための資料（日記、作文、手紙、はがき、メモ、報告文、新聞、ノートなど）が豊富である。 表記・表現 ○毛筆の筆使いは「トン」「スー」「トン」、筆圧は「そっ」「ぐっ」「ぐぐっ」など擬音を使いイメージしやすく分かりやすい。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮した色使いで、すっきりした分かりやすい紙面構成である。情報も精選されている。
総 括	○情報が精選されているので、各時間で押さえたいことが端的で分かりやすい。 ○課題解決型の学習が取り入れられており、児童の思考力を育む教材である。 ○言語感覚の育成のための、様々な場面による文章の書き方、筆記具の選び方などが記されている。 ○国語の学習に即した題材が取り上げられており、言語活動を充実させる手立てとなっている。

教科（書写）

書名 項目	小学書写 116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○各学年において、目次に1年間の目標がまとめてあり、1年でどのような力を付けるべきかが分かりやすい。 ○毛筆では、穂先に色がついた見本が示されていて穂先の向きと通ridor、筆の流れを意識させた指導がある。 ○我が国の文化として継承されてきた古典や文学作品が、書く教材として設定されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○文字を書く姿勢、筆記用具の持ち方については、どの学年も大きく写真を使い、ポイントを押さえて示されている。子どもの視線から撮影した写真も分かりやすい。 ○毛筆の準備から片付けまで、写真を使い丁寧に説明されていて分かりやすい。 ○1年初めの線のなぞりの時点で「とめ・はらい・おれ」を意識させている。 ○前学年を振り返る単元が初めに設定されており、学年間のつながりを意識して学習できる。 ○各学年で「①考える→②確かめる→③いかす」の3ステップを踏みながら、段階的に学習できるように工夫されている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「考える」「確かめる」などでは例えば書き始めの点がマスのどこからか、とめ・はらいは文字のどの部分か、児童に考えさせるような質問になっている。 ○目的に合った筆記用具の選び方では「のし袋」や「荷物の送り状」など、生活に生かせる題材が選ばれており、即実践できるものである。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○各時間にめあての振り返りがあり、実現に向けて意欲をもつことができる。 ○チャレンジコーナーでは、発展的な課題を取り上げ、意欲を高めている。 <硬筆と毛筆との関連> ○毛筆教材の後に、同じねらいをもった硬筆教材が設定され、毛筆で学習したことを生かして書くことができるようになっている。 ○学年や発達の段階に応じて、絵で表現したり写真で表されたりしている。特に低学年では、基本となる姿勢や持ち方のページが多く、写真も大きく分かりやすい。 ○「生きる力」「仲間」など道徳的な言葉が題材に用いられている。 ○長い歴史の中で受け継がれてきた「筆・墨・硯・紙」や「文字の成り立ち」の資料が提示され、文字そのものについて考えることができる。 ○とめ・はらいの書き方で「ピタッ」「スー」など擬音を用いているのでイメージがしやすい。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮されていて、さらに、気を付ける筆順が色別になっていて分かりやすい。
総 括	○全体的に生活環境や教科指導に関連した題材が取り上げられていて、各学年で押さえない内容が、一年を通して繰り返し指導されている。 ○高学年での資料の取り上げ方など、児童に興味をもたせ、国語への関心が高まるように工夫されている。 ○古典文学や文字文化に関連した教材や資料により、幅広い知識や書写に親しむ態度を養うことができるように工夫されている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員社会科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○地域社会の様子及び我が国の国土、産業、歴史、政治等の様子や働き、国際社会における我が国の役割などを理解し、公民的資質の基礎を養うために、どのような配慮がなされているか。 ○地域社会及び我が国の国土や歴史等を大切にし、地域社会や国土に対する愛情を育て、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを自覚できるようにするために、どのような配慮がなされているか。 ○社会的事象を具体的に調査し、地図などの各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるために、どのような配慮がなされているか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○基礎的・基本的な内容や資料活用の技能の確実な定着を図るために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○社会的事象を比較・関連・総合して見たり考えたり、公正に判断したり、多面的にとらえたりできるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○調べたことや考えたことを適切に表現できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○習得した知識、概念、技能と学習資料を効果的に活用し、学習問題を追究・解決するためにどのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○社会的事象に対する関心を高め、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。 ○学び方や調べ方を身に付ける学習や作業的、体験的な学習、問題解決的な学習を促したりするために、どのような工夫が見られるか。 ＜我が国の国土と歴史に対する愛情を育てるための工夫＞ ○我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための配慮がなされているか。 ＜公民的資質の基礎を養うための工夫＞ ○人権、福祉、環境、情報、国際理解など現代社会が抱える諸課題と法やきまりなどの扱い、持続可能な社会の実現など、よりよい社会の形成に参画する資質や能力をはぐくむために、どのような配慮がなされているか。 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の理解を高めるため、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注など）に、どのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

項目	書名 新編 新しい社会 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標・内容・内容の取り扱いを踏まえて構成されている。各学年とも具体的な事象を学びながら、地域への理解や参画等の公民的資質の基礎を養い、我が国の国土や歴史への愛着を育むことにつながるように配慮されている。 ○「まなび方コーナー」や豊富な資料等を活用しながら問題解決的な学習に取り組み、思考力、判断力、表現力等が高められるように、配慮された構成となっている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○随所に「まなび方コーナー」を設けて、見学や調査、年表やグラフからの読み取り、新聞づくりや意見文の書き方など、学習技能の向上を図れるよう配慮されている。 ○学習上重要な語句を「ことば」として明示し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○單元ごとに「まとめる」場面を設け、文章でまとめる、発表する、話し合うなど様々な言語活動を通して、習得した知識を定着させ、思考力、判断力、表現力を育成できるようにしている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○各單元「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という学習方法が明確になっており、問題解決的な学習を児童が主体となって進めていくことができる。 ○各見開きに「まなびのポイント」を提示し、多面的な学習を促す配慮がされている。 ＜我が国の国土と歴史に対する愛情を育てるための工夫＞ ○地域の伝統や文化、日本の産業や歴史等、様々な事例や資料、関わる人々を通して、郷土や国土と歴史に対する愛情を育てられるように配慮されている。 ○国土についても、日本の固有の領土の記述を含め適正に記載されている。 ＜公民的資質の基礎を養うための工夫＞ ○防災教育を充実させたり、環境を主題としたり、「いかす」という項目を設けたりして、社会の形成に参画・貢献する資質を育むための工夫がされている。
	資 料 ○中心資料等では、分かりやすい写真、統計、地図などを扱っている。資料の配置のバランスが良く質・量ともに豊富であり、比較したり、多面的に見たり、児童に色々と考えさせたりできるように配慮されている。 ○スムーズに資料の活用ができるように、見開きごとに通し番号をつけている。 ○本文の児童のセリフに、資料の見方、考え方が示されている。
	表記・表現 ○児童に親しみにあるキャラクターによるナビゲートや児童自身のイラストでの考え方の例示等が豊富で、他の資料と合わせて活用できるよう配慮されている。 ○学習過程が緑・オレンジ・赤・青とカラーリングされており分かりやすい。 ○落ち着いた色づかいで、ユニバーサルデザインに配慮された表記となっている。
総 括	○単元導入の「つかむ」で学習問題を考えさせ、展開「調べる」で何を調べるか毎時間のめあてが書かれ、まとめ「いかす」段階でまとめ方や生かし方を紹介するという問題解決的な学習で各学年揃えられており、分かりやすい。 ○学習をサポートするために、「ことば・まなび方・ひろげる・いかす」様々なコーナーが用意されており、学習に取り組みやすいように工夫されている。

書名 項目	小学 社会 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標・内容・内容の取り扱いを踏まえて構成されている。地域社会の具体的な事象を学びながら、地域への理解や参画等の公民的資質の基礎を養い、我が国の国土や歴史への愛着を育むことにつながるように配慮されている。 ○工夫された活動を通して、問題解決的な学習に取り組み、思考力、判断力、表現力等が高められるように、資料等を活用しながら配慮された構成となっている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「学びのてびき」があり、資料の読み取り方や考える観点が提示されており、知識・技能の習得を支援する内容となっている。 ○「キーワード」や「解説」のコーナーで、重要な語句の説明をしている。「まとめる」では、穴埋め等により学習したことを整理させ、知識の定着を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○各単元の学習課題から、追求、整理に至る問題解決の記述が「つかむ・調べる・まとめる」と首尾一貫していている。更に「深める」では学んだことを交流し、自分の言葉でも表現できるように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○学習問題が明示され、見通しをもって、児童が主体的に問題解決的な学習が進められるように構成されている。また、児童にとって親しみがあるキャラクターが一貫して登場し、共感的に学びが進められるように工夫されている。 ＜我が国の国土と歴史に対する愛情を育てるための工夫＞ ○埼玉県出土の「稲荷山古墳の鉄剣」が歴史教材で扱われたりして、地域の伝統や文化についての理解を深めることが出来るように教材や配列が工夫されている。国土についても、日本の固有の領土の記述を含め適正に記載されている。 ＜公民的資質の基礎を養うための工夫＞ ○環境保全他、現代的な課題を含め、様々な社会事象を学ぶことを通して、社会に参画・貢献する基礎的な資質を高めるための配慮や工夫がされている。 ○分かりやすい写真、読み取りやすい統計、必要に応じて図解や地図などを扱い、問題解決に至るように提示されている。例えば、長篠の合戦では重要な3人の武将を資料を拡大して示し、考えさせるように工夫されている。 ○全般的に資料が豊富であり、「もっと知りたい」の項目では、各種の詳しい資料を掲載し、学習を深めるような配慮もされている。 ○教科書本文は学習内容の説明に、児童のセリフ等は挿絵に吹き出しで書かれており、学習内容と児童の活動が峻別され、分かりやすい表記となっている。また、見開きで学習が行われるように頁構成も工夫されている。 ○色は鮮明で明るく、ユニバーサルデザインに配慮された表記となっている。
総 括	○どの学年においても、単元を通した問題解決的な学習で進められている。単元導入の「つかむ」で学習問題を考えさせ、展開「調べる」で何を調べるか、毎時間のめあてが触れられている。 ○発達段階を踏まえながら、繰り返して学習することを通し児童が主体的に学び、その成果を文章で書き表すなど多様な形態が取り入れられている。学習の要の各種資料も単元ごとにナンバリングされており活用しやすい。

項目	書名 社会 38 光 村
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標・内容・内容の取り扱いを踏まえて構成されている。発達の段階に応じた基礎的な知識や資料を活用して、社会に参画する公民的資質の基礎を養い、我が国の国土や歴史への愛着を育むことにつながるように配慮されている。 ○3ステップの問題解決的な学習に取り組み、思考力、判断力、表現力等を高めるとともに、言語活動的な資料を軸として活用できるように配慮されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○巻頭の「ようこそ」のコーナーで、課題の見つけ方、調べ方などの学習方法についての説明があり、基礎的知識や技能が習得できるように配慮されている。 ○本文に関連する語句や写真等の資料が、詳しい説明とともに配置されており、基礎的基本的な学習内容を習得できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○学習内容に応じて多様な資料が提示され活用できるように配慮されている。まとめの箇所等では話し合いの活動を促す投げかけが多く見られる。言語活動の充実を視野に入れながら、児童の思考力等の育成が図られるような構成となっている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○各単元の学習の流れが「ホップ・ステップ・ジャンプ」に分かれて構成されており、児童が学習の見通しをもち、主体的に学習が進められるようになっている。 ○イラストの問いかけで問題の投げかけや資料読み取りのポイントを解説している。 ＜我が国の国土と歴史に対する愛情を育てるための工夫＞ ○地域に受け継がれた伝統や文化を伝える人々や先人の姿、国宝や世界遺産、有形無形文化財を広く取り上げ、国土や歴史に対しての関心をもてるように配慮されている。国土についても、日本の固有の領土の記述を含め適正に記載されている。 ＜公民的資質の基礎を養うための工夫＞ ○単元末に「まとめる・広げる」を設定し、様々な視点から自分たちにできることを考えさせるなど、社会参画の意識を育むための動機付けへの配慮がされている。
	資 料 ○イラスト・写真・グラフ等の資料は、見開きで提示したりして、本文の記述に関連させ、有効に活用できるようにしている。新聞資料の活用も多い。また、長篠の合戦図の周囲をカットして3人の武将等を比較的大きめに見られるように編集するなど、児童が分かりやすく学習に取り組めるような配慮がされている。 ○5・6年の教科書を一冊にし、年間を見通した学習ができるようにしている。
	表記・表現 ○キャラクターの吹き出しを使い、学習方法や学習活動に具体的な助言をしている。 ○黒板をイメージしたイラストがあり、板書や資料掲示の参考ともなり、授業場面を想定するような表現が見られる。 ○シンプルな色づかいで、ユニバーサルデザインに配慮された表記となっている。
総 括	○単元を通した問題解決的な学習で進めている。構成は「ホップ（見つける）」「ステップ（調べる・話し合う）」「ジャンプ（まとめる・広げる）」で単元の指導を展開している。 ○学習の過程で、調べたことを意見交換する友達同士の学び合いによって学習を進められるように配慮されている。全体的に、本文の説明の文章の分量が多く、詳しい説明が為されている。

教科（社会）

書名 項目	小学社会 116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標・内容・内容の取り扱いを踏まえて構成されている。今日的課題や文化財保護に関わる人々の事例等から、我が国の国土や歴史への愛着を育むとともに公民的資質の基礎を養い、社会参画への関心を高める配慮がされている。 ○小单元ごとに学習課題に取り組み、多様な資料に基づき、その結果をまとめる作業を通して、思考力、判断力、表現力等が育まれるように構成されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「教科書のしくみ」の頁を設定し、教科書の使い方と学習の流れを説明して基礎的・基本的な知識や技能の習得に配慮している。 ○用語解説や「キーワード」の欄、まとめに役立つ「ふりかえってみよう」の欄等があり、児童が効果的に学習できるよう工夫されている。 <思考力、判断力、表現力等の育成> ○単元末の「ふりかえってみよう」で学習を再確認し、年表や新聞など多様な表現活動でまとめることにより、思考力や表現力の育成を図っている。 ○キャラクターを活用して資料を比較検討することで、思考がスムーズに流れるような配慮がされてる。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○「問いの旅」で学習の流れを示し、問題解決的な学習に取り組めるように配慮されている。「大きくジャンプ」欄で興味、関心を発展させるように工夫されている。 ○「学び方・調べ方コーナー」欄で児童の主体的な学習を促している。 <我が国の国土と歴史に対する愛情を育てるための工夫> ○「大きくジャンプ」の欄では、伝統や文化の紹介や体験を通して国土や日本の歴史に興味・関心を高めることができるような配慮がされている。 ○国土についても、日本の固有の領土の記述を含め適正に記載されている。 <公民的資質の基礎を養うための工夫> ○単元のまとめの頁等で、学習してきたことをもとに、自分の考えを持ち、取組を動機づける等の学習活動により、社会への参画意識を育むよう工夫されている。 ○問題解決の際に活用する中心資料が、比較的分かりやすく、写真、統計、イラスト等などが扱われている。特にグラフが大きく掲載されており分かりやすい。 ○「学び方・調べ方コーナー」欄において、資料の見方、活用の仕方についてポイントを押さえながら触れられており、学習に取り組みやすいように工夫されている。 ○児童の作品を例にした作品や新聞が掲載されており、資料としても効果的である。 ○キャラクターが教科書の使い方や学習の助言等を分かりやすく表現している。 ○言葉、キーワード、課題などの各コーナーが統一した色別になっており、効果的な色づかいをしている。また、ユニバーサルデザインに配慮された表記となっている。 ○キーワードやむずかしい言葉欄があり、語句の説明を丁寧に行っている。
総 括	○小单元ごとに学習問題を設定して、追求しながら学習を進め、問題を解決していくように内容が構成されている。「学び方・調べ方コーナー」があり、グラフの見方、イラストの見方など、児童の調べ学習を支援し、技能の向上とともに基礎的基本的な学習内容の定着が進むように配慮されている。 ○児童の学習の便宜を図るための目的に応じた各種のコーナーが充実している。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員社会科（地図）調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、どのような配慮がなされているか。 ○地図帳を活用し、情報の収集、整理等、問題を解決していく際、地図帳への親しみをもたせ、活用する知識や能力を育てるために、どのような配慮がなされているか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料の活用の仕方など、地図帳を活用する知識や技能を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てる効果的な地図の活用という観点から、どのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○児童の興味・関心、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか 資 料 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・単位などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

書名 項目	新編 新しい地図帳 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標や内容を踏まえ、適切な資料に基づいて児童が興味・関心を持って学習を進められるように構成されている。「ながめてみよう日本のすがた」から始まり、地形図で自然のすがた、都道府県図、「日本とそのまわり」などが記載され、学習を通して日本の国土と歴史について理解を図るように配慮されている。 ○地図記号、縮尺、等高線等、基本的な地図指導の内容が適正に押さえられている。
特 色 内 容	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○地図指導の基本となる「地図帳の使い方」では、4頁に渡って、地図記号、索引、方位、縮尺、土地利用といった基本的な地図帳の使い方が丁寧に解説されている。地球儀の活用についても写真入りで分かりやすく説明されている。 ○歴史に関しても写真等が多用され、世界文化遺産とも関連づけながら説明されている。世界の主な大陸、海洋、主な国や都市の名称と位置もポイントを押さえながら詳しく掲載されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○キャラクターが各頁に登場して、吹き出しの中で、それぞれの箇所興味・関心を持って社会事象について考えたり、判断したりする際の視点について触れている。 ○日本の自然の学習でも気候に関しては例示が多く、比較検討して学習できるように配置されている。巻末には、列島の災害地図を入れ、地形や気候から災害の起こる原因や防災対策について考察できるように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○子供のキャラクターが、地図上のほぼ全部の頁に登場する。吹き出しの言葉に沿って学習を進めると、地域の特徴が押えられるように工夫されている。また、使用頻度の高い統計資料を大きく提示し、都道府県クイズ等も掲載するなど、児童が主体的に学習に取り組みやすいように配慮されている。 ○歴史に係わる表記は、地図上では青で表記され、歴史学習にも興味を持って取り組めるように工夫されている。
資 料	○日本の基本図、世界の基本図それぞれが同一縮尺、同一図法で掲載されている。また、全図の中での範囲と位置が示され、比較が容易となる工夫がされている。各国の国旗は巻末の世界全図の箇所に掲載されている。 ○冒頭に地名のない地図がある。それを含めて、適切な地図や写真等の資料の配置により、地図の効果的な活用を促すように工夫されている。
表記・表現	○A4判のため資料等が大きく見やすい。縮尺を定規で表しているので、児童に分かりやすいように工夫されている。書体や配色もユニバーサルデザインの視点で配慮されている。 ○世界地図での都市名等が、細かいところまで詳しく表記されている。
総 括	○地図指導の基本が、巻頭に4頁に渡って丁寧に説明されている。日本や世界の地図も適正に掲載され、段階的・継続的に地図学習が出来るように工夫されている。 ○キャラクターや写真・イラストが効果的に活用され、地図学習が苦手な児童でも扱いやすいよう工夫されている。資料も多面的・多角的に厳選して掲載され、大変分かりやすい構成となっており、教科書と同様な取り扱いが可能である。

項目	書名 楽しく学ぶ 小学生の地図帳 46 帝国
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の目標や内容を踏まえ、適切な資料に基づいて児童が興味・関心を持って学習に取り組めるように構成されている。「宇宙からながめた日本列島」から始まり、各県の特徴ある内容を押さえた都道府県図、「日本とそのまわり」などが記載され、日本の国土と歴史への理解を進められるように配慮されている。 ○地図記号、縮尺、等高線等、基本的な地図指導の内容が的確に押さえられている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○地図指導の基本となる「地図帳の使い方」では「地図のなりたち」に始まり6頁に渡って使い方が丁寧に説明されている。索引については、実例を挙げながら使い方が説明されている。地球儀の使い方世界全図と併せて詳しく説明されている。 ○歴史に関しても、年表や昔の交通路が掲載されたりして分かりやすく説明されている。世界の主な大陸、海洋、主な国や都市の名称と位置もポイントを押さえながら掲載されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○キャラクターが登場して、吹き出しの中で、それぞれの箇所興味・関心を持って社会事象について考えたり判断する際の視点について触れている。 ○考えるポイントや作業のアドバイスが掲載され、資料の比較検討がしやすい。巻末には列島の災害地図を入れ、災害の起こる原因や防災対策についての考察から、防災マップづくりなどに取り組めるように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○子供のキャラクターに加えて、チャレンジやトライという項目を作成し、より発展的に学んだり、学んだことを生かせるように作業手順を明記したりして児童が主体的に学習に取り組めるように配慮されている。あわせて、小さなスペースを活用して様々な資料を掲載し、児童が興味関心をもてるような工夫がされている。 ○歴史に係わる表記は、地図上では青で表記され、歴史学習にも興味を持って取り組めるように工夫されている。
	資 料 ○日本の基本図、世界の基本図それぞれが同一縮尺、同一図法で掲載されている。また、全図の中での範囲と位置が示され、比較が容易となる工夫がされている。各国の国旗が地図の頁に掲載され、地図を見ながら確認できる。 ○多彩な資料が各頁の隅々まで掲載されている。それを含めて、適切な地図や資料等の配置により、地図の作業的な活用を促すような工夫がされている。
	表記・表現 ○日本・世界・資料等の頁に色毎で区別されたインデックスがあり調べやすい。縮尺の説明も分かりやすく記載されている。書体や配色もユニバーサルデザインの視点で配慮されている。 ○日本地図で地名等が細かいところまで見やすく表記されている。
総 括	○地図指導の基本が、巻頭に6頁に渡って丁寧に説明されている。日本や世界の地図も適正に掲載され、段階的・継続的に地図学習が出来るように工夫されている。 ○キャラクターと写真を補助として、地図を活用した地域学習を通して、対象の地域の特徴を把握しながら作業を進められるように工夫されている。地図に関する資料としては多方面から細かく掲載されており、活用面の多様性が図られている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員算数科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるために、どのような配慮がなされているか。 ○日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えられるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関係を理解し、それらを適切に用いて問題を解決するためにどのような工夫が見られるか。 ○学習したことを発展させたり、様々な場面で活用させたりするために、どのような配慮がなされているか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○児童が算数を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりできるようにするためにどのような工夫が見られるか。 ＜発達や学年の段階に応じた指導への配慮＞ ○発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導についてどのような工夫が見られるか。 ○複数の領域間の指導の関連、他教科、道徳との関連などについて、どのような配慮がなされているか。
	資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。
	表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・単位などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	（全体的な特徴、その他）

教科（算数）

書名 項目	新編 新しい算数 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習内容毎の適用問題、補充問題等が用意され、また答えも掲載されており、自学しながら基礎的・基本的な知識・技能を身につけられるよう配慮されている。 ○単元はじめの問題と考え方・ヒント・ノート事例が同じページにならないよう配置され、見通しをもち、考え、表現するという問題解決の展開がしやすい。 ○生活に即した問題から進んで生活や学習に生かすよう配慮されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○巻末に「ふりかえりコーナー」があり、既習事項を児童が自ら確かめられる。 ○「教えるべき内容」と「考えさせる内容」が紙面で分かるよう色分けされている。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、難易度を２段階にした補充問題「力をつける問題」「しあげ」など豊富に用意されている。 <思考力、判断力、表現力等の育成> ○「考えよう 伝えよう」では、側注を設けて思考活動・表現活動を具体的に示唆するなどして、それぞれの学習活動の意図が児童にわかるよう工夫されている。 ○５年生で「比例」を単元化し、演算決定の根拠に比例を使えるようにしている。 ○３年生の「三角形」では「円」とのつながりを意識した単元導入課題となっている。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○「学習の入口」から「今日の学習」といった学習の仕方を示すページがある。 ○「やってみよう」「算数のおはなし」で身の回りにある算数に着目する活動を設け、児童が興味や関心をもって主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ブロック操作など算数的な活動を多く取り入れている。 <発達や学年の段階に応じた指導への配慮> ○「単元プロローグ」で既習内容の理解を系統的に振り返り整理する活動を取り上げたり、既習内容との違いを考える活動を吹き出しで示したりしている。 ○伝統文化、国際理解、環境教育などのテーマに沿った課題を取り上げている。 ○「数学の世界へ」では、中学校数学への興味関心・学習の素地づくりになっている。 ○単元の導入では、実生活のさまざまな事象を提示し、写真を用いて実感をもたせたり、実際のデータをもとにしたグラフや表を活用するなどの工夫がなされている。 ○生き生きと活動している写真を載せることで、意欲を高め、実際に活動するときのイメージをもちやすいようにしている。 ○綴じ込み教材では紙の材質を変えるなど算数的活動での機能性を重視している。 ○「今日の学習」「学習のめあて」「考えるときの手がかり」などがマークで示されていてわかりやすい。 ○基礎的・基本的な事項の定着を図りたい事柄・用語はゴシック体で示されている。 ○色が多彩で読みやすく、図や絵、イラストと文章とのバランスがよく見やすい。
総 括	○児童が自ら問題を解決し、他の児童と協働しながらよりよい考えを導けるよう学習過程を示し、算数の学び方を習得できるようにしている。 ○難易度を２段階に設定した補充問題など、基礎的・基本的な事項の定着を図るための工夫やノートづくりを重視することで、具体物・半具体物・数直線図・グラフ・表・式・言葉を用いた思考力・表現力の育成を図ることができる。 ○算数・数学のつながりにも配慮されている。 ○保護者や児童に教科書の特長や使い方が詳しく説明され、家庭学習もしやすい。

教科（算数）

書名 項目	新版たのしい算数 4 大日本
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○全学年において学年1冊とすることで、既習事項を繰り返し振り返って確認することができ、基礎的・基本的事項の定着を図ることができるようになっている。 ○「算数の学び方」を示し問題解決型の学習を進めること、またノート工夫例を示し自分の考えを書いたりすることで、思考力・表現力の育成につながっている。 ○生活面に関連し、解決の必要感を感じる課題設定で算数的活動も充実している。
特色 内容 資料 表記・表現	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○適用問題を含め、多数問題が用意されている。練習1・練習2・まとめの練習など問題が1ページにまとめて設定されている。 ○「レツトライ」「復習」コーナーで、既習事項の定着が図れるよう配慮されている。 ○全学年の巻末に索引を設け、算数科の用語や大切な事柄から振り返りができる。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○教科書に立式だけでなく問題解決に関わる理由（わけ）を記入する欄を設け、表現力育成の工夫が見られる。また、図や式の意味を読み取る活動も取り入れている。 ○「多用な解決方法」を取り上げ、それを基によりよいものに高めるために「話し合い活動」を積極的に取り入れている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○単元の始めにアプローチページを設け、学習意欲を喚起するとともに、児童が単元の見通しをもって主体的に学べるようになっている。 ○書き込みスペースが多くあり、児童が進んで取り組めるようになっている。 ○算数的活動を紹介し、取組への意欲付けを図っている。 ＜発達や学年の段階に応じた指導への配慮＞ ○単元の導入で学年内や学年間で学習内容のスパイラル化を図っている。 ○目次では、全学年の系統性が分かるように示されている。 ○他教科と関連した課題や統計資料などを内容に応じて扱っている。 ○小中連携を意識した「数学の世界へ」の単元が設定されている。 ○統計資料が正確で紙パックのリサイクルについて取り上げるなど、児童に臨場感・必要感を持たせるものが準備されている。 ○写真よりも絵や図が多く構成されている。 ○児童の興味を喚起するとともに、問題解決のための情報提供の場になっている。 ○図に表すことを指示する発問、図を見て説明させる発問がある。 ○用語、記号は必要に応じて太字や枠囲みで表すなど、工夫されている。 ○他の意味にもとらえられるような曖昧な表現を避け、丁寧で正確な文章が簡潔に示されている。 ○まとめや吹き出しに大切な事が書かれており、文言もわかりやすい。
総括	○立式の根拠を大事にしており、数直線図を重視し、構成されている。 ○教科書に書き込めるスペースが多い。 ○「算数たまてばこ」では、算数への関心が高くなる問題が提示され、児童が楽しく取り組める。また、「思いだそう〇年」では、既習事項を確認できるようになっている。 ○参考となる考えやヒントが少ないので、進んでいる児童には自分で考えることの楽しさが味わえる。また、算数授業の得意な先生には活用しがいがある。

教科（算数）

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 算数 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○目次での既習単元名の記載や「学習の準備」での学習の振り返り、習熟を図るコーナーの設定などがあり、工夫されている。 ○「算数でよく使う考え方」を示し、問題解決に必要な思考力・表現力が活用できるようになっている。 ○活動マークや側注「学びの手引き」により算数的活動を効果的に進められる。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○単元の学習内容の確認や活用を図るための「力だめし」「チャレンジ」、理解や習熟を図るための「サポート」「補充問題」、巻末の「力をつける問題」など振り返りながら確実に学力をつけることができる問題が豊富である。 ○既習の単元名とリンクした系統性をふまえた目次が示されている <思考力、判断力、表現力等の育成> ○算数的活動を効果的に進めるために、「学びの手引き」があった。設問に沿ってスモールステップで課題を解決していくことができるように工夫されている。 ○3年では二等辺三角形の弁別の観点に「つるすとつり合う形」を設け、図形のバランスのとれた美しさを感じとり、重心につながる感覚を育てようとしている。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○「学びの準備」「見たことあるかな」「思い出してみよう」のページにより、既習事項を確認しておくことで単元への導入をスムーズに行えるよう工夫されている。 ○「ノート名人になろう」ではノートの正しいとり方を、「レポートめいじんになろう」ではレポートの書き方を示し、進んで活用しようとする態度を育てている。 <発達や学年の段階に応じた指導への配慮> ○文字も大きく文章の区切りも文節で改行していて読みやすい。絵や写真、図が多く、問題場面等の理解に効果的である。 ○小中のつながりを重視する「中学校への架け橋」という別冊の教科書を用意し、児童が数学の学習への不安を解消できるようにしている。 ○単元の導入や問題場面では、絵や写真、図などが多く、児童の興味関心を高め、意欲をもって学習を進められるよう工夫されている。 ○表や数値だけでなく、解や方法の見通しをもてるよう吹き出しで示し、順序立てて考える「書き込み」ができるようになっている。 ○数値の意味がきちんと示されている。 ○練習問題でつまずいた時に、既習事項の振り返りができるように既習事項を記したページ数が、問題のすぐ脇に書かれている。 ○「おそらく～だろう」「まず、次に・・・」など、筋道をたてて考えたり、説明したりするコーナーが設定されている。
総 括	○学習の手順や問題解決に必要な数学的な考え方を提示し、算数の学び方を習得できるよう構成されている。 ○身近な生活の中から問題を提示し、絵や写真等を用いることで問題場面の把握をスムーズに行えるようにしている。 ○効果的に数直線・面積図・グラフ・表・式・言葉を用い、思考力・表現力を高めている。 ○小中のつながりを意識した学習にも配慮されている。

教科（算数）

書名 項目	小学算数 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○これまでの学年での既習内容を巻末の「学びのマップ」を掲載し、既習事項を振り返れるようになっている。作図技能が「学びの手引き」で繰り返し掲載されている。 ○数学的な考え方について、具体的な学習場面を通して、子どもの言葉を使って整理するページが設定されている。 ○実生活に関連した問題や作業的・体験的な活動を豊富に扱っている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○計算練習では基本的な型を色分けし、最低限取り組む問題を明確にしている。 ○巻末「ステップアップ算数」は、「きほんの問題」と「レベルアップ問題」に分けて構成されている。また、解答もついており、家庭学習にも取り組めるようになっている。 <思考力、判断力、表現力等の育成> ○「学びの手引き」では、算数を学習していくときに大切な数学的な考え方やノートの作り方、数直線のかき方などを示したり、キャラクターに考える順序やヒントを言わせるなどして思考力・表現力の育成を図っている。 ○「算数を使って考えよう」で、筋道を立てて考え表現する力を育てている。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○授業開き教材があり、算数への関心を高めるよう工夫されている。 ○「はてな？」で学習のねらいを、「なるほど！」でまとめが示されている。 ○算数的活動や自力解決を進めるヒントや簡単なまとめ「！」がキャラクターの吹き出しで示されている。 <発達や学年の段階に応じた指導への配慮> ○異なる領域の学習を結びつけ、相互に活用し解決する問題が取り上げられている。 ○互いのよさを認め合えるように「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」と促している。 ○「数学へのとびら」で、小中のつながりを意識した学習ができるようになっている。 ○実際の長さで描かれた円の図形から面積を導き出せるような綴じ込み教材が用意されており、算数的活動の充実が図られている。 ○写真や絵が豊富である。 ○「算数ワールド」や「広がる算数」では、知的好奇心や発展的・統合的な見方を育てるためのコラムが示されている。 ○平易で簡潔な文章表現になっている。 ○まとめのところで、4コマ漫画の形式で、分かりやすく単元のまとめができるようになっている。 ○キャラクターたちの考えが黒板に書かれているイラストで構成されている。
総 括	○できる板書例としてイラスト化されているので、授業で生かすことができる。 ○教科書を活用してそのまま「導入→自力解決・・・」と授業を進めることができるように構成されている。 ○1ページあたりの情報量が多い。 ○ヒント、考え方、数直線の書き方など資料が多い。家庭学習での活用や学力の遅れがちな児童にとっては活用しやすい。 ○算数的活動を取り入れた問題解決型の授業の流れを大切にしている。

教科（算数）

書名 項目	わくわく 算数 61 啓林館
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎的な知識と技能を身に付けさせるために既習事項を定着させるコーナーの設定や練習問題を配置するよう配慮されている。 ○筋道を立てて考え、表現する能力を育てるために思考力を重視した課題や図の例示について配慮されている。 ○実生活に即した問題を設定しており、生活に生かすよう配慮されている。
特色 内容 資料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○適宜「復習」が設定され、習熟が必要な計算問題などは、学年をさかのぼって取り上げられている。 ○既習事項から発展へとスモールステップの展開になっている。 ○単元末の「たしかめましょう」「復習」では、問題数を十分確保している。 <思考力、判断力、表現力等の育成> ○話し合い活動で、根拠や手順などを説明する活動が設定されている。 ○「考えを広げよう、深めよう」では問題解決に有効な考え方や図、表などの書き方が丁寧に示されている。 ○類比、帰納、演繹の考え方が、「にている」「きまり」「もどる」で示されている。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○「よみとる算数」「やってみよう」「さがしてみよう」を設け、日常生活に算数の知識・技能を活用する活動が設定されている。 ○教科書の使い方や学習の進め方が教科書の始めにしっかりと示されている。 ○「学習の感想」では、学習内容の振り返りをさせるように工夫されている。 <発達や学年の段階に応じた指導への配慮> ○「準備」としてこれから学習する内容に関連する既習事項が取り上げられている。 ○目次で系統性が明らかになっている。 ○「数学へのとびら」で中学校とのつながりを明記している。 ○主問題を枠で囲んだり、文節で改行したりし、読みやすくなるよう工夫されている。 ○写真や絵が豊富である。単元の導入時にはダイナミックな写真がある。また、埼玉スタジアムの備蓄倉庫内の非常食や雨水の備蓄を題材とした問題など、大変身近で興味のわく資料が設定されている。 ○算数の学習が将来の仕事に役立つという事例を資料として巻頭に掲載している。 ○算数の授業の流れや数学的な考え方、表現の仕方についての解説が巻頭にある。 ○国語教育の専門家の監修のもとに表記されている。 ○算数用語には、配当学年に関わらず、必要に応じてふりがながふられている。 ○挿絵や写真の上に文字が重なる場合は、文字のまわりが白く縁取られている。 ○判別しにくい配色を避け、どの児童にも読み取りやすくなるよう配慮されている。
総括	○低位の児童にも自力解決や確実な定着が図れるよう、スモールステップ形式を取り入れている。 ○「復習」「考えを広げよう、深めよう」など児童の学力に合った問題が設定されている。 ○児童の経験を考えた問題場面、生活の中にある算数を取り上げられている。 ○穴埋めのように、直接教科書の□の中に書き込んで学習を進めることができる。 ○家庭学習の習慣化を図るための「保護者の方へ」が掲載されている。

教科（算数）

書名 項目	小学算数 116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎的・基本的な内容の意味理解に重点をおいた展開になっている。 ○既習事項を活用して解決の見通しを立てたり、結果の見積もりを解決に生かしたりするなど、「学び方ガイド」を示し、思考力が育つように工夫されている。 ○「いち・に・算活」を設け、作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に生かす活動を充実させ、実感を伴うことで算数の価値に気づくようにしている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○「たしかめポイント」や「ステップアップ練習」など、自分で学習を進められるように学習手順が示されている。また、「まちがいやすい問題」コーナーを設け、基礎基本の定着を図れるようにしている。 ○紙面が大きく、側注にたえず既習事項の確認ができるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○具体的なノート例を示し、整理されたノート作りを通して力を高められる。 ○側注に問題解決を進める発問が手引きとなり、それに答えながら学習を進めることで自力解決が図れるようになっている。 ○言葉や数、図、式などの相互関連を整理して取り上げている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○教室の内外で取り組むことのできる作業的・体験的な算数的活動が取り入れられ、主体的な学習活動が展開されるようになっている。 ○「算数で使いたいことば・考え方」では、算数の学習を通して身に付けてほしい内容がまとめられてあり、活用しやすく構成されている。 ＜発達や学年の段階に応じた指導への配慮＞ ○上下2冊構成、A4サイズより横幅の広い紙面になっているので、文字も大きく文章の区切りも文節で改行して読みやすい。 ○絵や写真、図が多く問題場面の理解に効果的である。 ○「算数マイトライ」では習熟の度合いに応じた弾力的に扱う問題が用意されている。 ○防災的な視点やリサイクルなど環境教育の視点など、日常生活からの題材を取り上げ、身近な生活の中の算数に関心をもてるようにしている。 ○写真がふんだんに使われ、問題場面をとらえやすいように工夫されている。 ○グラフ等の統計資料が豊富である。 ○粘土細工の人物が問題の状況を説明するので温かな雰囲気が漂い理解が進む。 ○学習指導要領に掲げられた用語や、学習を進める上で必要な数学的表現や説明については、本文と書体を変えて表記している。 ○言葉の式、式、数直線図を組み合わせて表記している。 ○色の違いにより区別する問題や場面を避けるなど特別支援教育へ配慮されている。
総 括	○問題解決の手引き書ともなる細かな発問が用意されているので、解決までの筋道を立てて考えるという学び方を習得することができる。 ○多様な考え方の提示により児童の思考力、判断力、表現力が育成されるよう配慮されている。 ○振り返りや学習のつながりを側注で確認できるよう工夫されている。 ○スモールステップで問題が構成されている。 ○個に応じた柔軟な取り扱いができる補充・応用・発展問題が用意されている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員理科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、 学校教育法の 下の小学校学 習指導要領の 教科の目標と のかかわり	○自然に親しみ、自然を愛する心情を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○見通しをもって観察・実験などを行い、問題解決の能力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○自然の事物・事象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うために、どのような工夫が見られるか。
特 色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能・理解を習得する工夫＞ ○基礎的な観察・実験操作の技能や、科学に関する基本的な言葉や概念を習得させるために、どのような工夫が見られるか。また、学習内容を実生活と関連付け、実感を伴った理解を図るために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、表現力等を育成する工夫＞ ○観察・実験の結果を分析し、解釈することや、科学的な言葉や概念を使用して考え、説明するために、どのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○自然の事物・現象に興味・関心をもち、主体的に問題解決する活動の過程に、どのような工夫が見られるか。 ＜環境保全や安全性への配慮＞ ○事故防止や環境保全に関する事項の取り上げ方に、どのような工夫が見られるか。
	資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。
	表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・単位などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

教科（理科） 書名		項目
新編新しい理科		2 東 書
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導要領の教科の 目標とのかかわり		○単元の導入では、「予想しよう」「計画しよう」を設けて児童が見出した問題に対して予想や仮説をもち、観察・実験が意欲的に行えるよう配慮されている。 ○「理科のひろば」「説明しよう」を設け、学習内容と日常生活や自然の事物・現象とを関連させ実感の伴った理解が得られるよう配慮されている。
特色	内 容	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得（実社会・実生活との関連を含む）について〉 ○「観察・実験」の内容が各ページ左側にまとめて示してあり、写真や図を使って観察・実験の仕方がわかりやすく示されている。また、単元末に「たしかめよう」の問題、巻末資料に「たくさんの発見をしたね」「理科の調べ方を身につけよう」があり、単元で得た知識や観察・実験の仕方が確認できるよう工夫されている。 ○単元の導入の「思い出そう」で生活経験を想起させ、単元末の問題では、生活の事象について、学習したことを活用して考える問題を取り上げ、学習内容と日常生活や自然の事物・現象とのかかわりに実感が伴えるよう配慮されている。 〈思考力・判断力・表現力等の育成について〉 ○観察・実験の結果を棒グラフや表など視覚的にわかりやすく整理する単元が多く、表現力だけでなく思考・判断を容易に行えるよう工夫されている。 ○観察・実験において、見通しを持ったり考察したりする視点が示されており、思考力・判断力を育成する場面が設定されている。 〈主体的に学習に取り組む態度の育成について〉 ○巻頭に課題設定からまとめまでの問題解決の流れを示し、理科の学び方にイメージをもって取り組めるようになっている。また、教科書中に緑のラインで問題解決の流れが示されており、問題解決的な学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○既習内容が想起できるよう、各学年単元の導入ページに「思い出そう」が設定されており、そこから新しい単元への興味付けと学習の連続性を持たせるよう工夫されている。 〈安全・環境保全について〉 ○安全に対し配慮が必要な箇所には「きけん」と赤い文字が明記されており、安全に実験・観察が行えるよう配慮されている。環境保全に係る内容については「かんきょうマーク」を付けて明記されている。
	資 料	○全体を通して、数多くの写真や図、イラストのレイアウトがわかりやすく工夫されている。（メダカとプランクトンとの大きさがわかる比較資料など） ○透かして見たり折ってみたりする資料が使われている。（実物大の胎児の成長資料や飛び出る人体模型など） ○既習事項の確認や定着に向けて、多くの資料が巻末に載っている。
	表現・表記	○学習・実験・資料・復習などがページや見開きでくぎられ、見やすく配慮されている。 ○大きな文字でわかりやすく表現されている。 ○読みやすいレイアウトで、適度なスペースもある。 ○色やフォント、レイアウトがユニバーサルデザインを意識してつくられている。
	総 括	○基礎的・基本的な知識や技能の習得ができるよう配慮されている。 ○各学年の学習展開が統一されており、文字のフォントの大きさや色、レイアウトなど表記もユニバーサルデザインの観点で統一され、多くの写真や図が入っているにもかかわらず煩雑にならず見やすく構成されている。

教科（理科） 書名 項目	新版 たのしい理科 4 大日本
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導要領の教科の目 標とのかかわり	○自然の事物・現象に対する関心や意欲を高めるために、実際に児童が体験したことから児童どうしが話し合い、導入するように構成されている。 ○見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に調べる能力や態度を育てるために、単元の導入に単元の学習の流れが写真で記載されている。また、観察シートや折り込み資料、シールなど、児童が主体的に学習に取り組み、興味・関心を引き出すよう配慮されている。
特 色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得（実社会・実生活との関連を含む）について〉 ○観察・実験、器具の操作などで、スムーズに活動を行うためのコツなどが「ポイント」マークを付けて色文字で配置されている。学年末には、「ふりかえろう」を設け、学習した語句を単元ごとに掲載し、基礎的・基本的な知識・技能を確認できるよう工夫されている。 ○「やってみよう」では、観察・実験だけでなく体験的に進める内容が多く、自然や科学にふれる機会が数多く設定されている。単元末には、資料性の高い「りかのたまてばこ」や「ジャンプ」を配置し、学習の幅を広げるとともに実生活との関連を深め探究意欲を高める内容が紹介されている。 〈思考力、判断力、表現力等の育成について〉 ○学年ごとに、重点をおいて育成すべき問題解決の力を明記し「理科の学び方」としてあげるとともに、条件の揃え方や推論して調べるなど、各学年の重要テーマが構成や表記に反映されている。 ○児童の自由な発想や表現を引き出すための工夫として、ノート例を示している。また、自分の考えを伝え、他者の考えを聞く話し合いの場面を掲載するなど、児童が例にならって学習が進められるようになっている。 〈主体的に学習に取り組む態度の育成について〉 ○単元の導入には、見開きで児童の興味を引く自然の事物現象のイラストを掲載したり、単元末には、「確かめよう」「学んだことを生かそう」を設け、学習した内容を振り返って確認したりできるよう配慮されている。 ○多くの単元で自然の事物・現象とふれる中で学習問題を見つけさせるなど児童が主体的に問題解決できるよう工夫されている。 〈安全・環境保全について〉 ○安全上配慮が必要な箇所には、「注意」マークを示し、取り扱いや事故防止の注意喚起をしている。また、「環境」や「しげんと人」マークを示し、環境や生物、資源の大切さについて考えるよう工夫されている。 資 料 ○挿絵や写真・資料が充実している。特に天体関係の資料が工夫されている。 ○天気の変化・めだかの雄雌等、比較しやすいよう折込式のページがある。 ○学習シールや透明シートなど、児童が主体的に活動に臨めるよう工夫されている。 ○実物大の成長の段階の胎児の大きさを載せ、想像しやすくなるよう工夫されている。 表現・表記 ○算数との関連を図り、単位の表記の仕方や読み方が書かれている。 ○重要語句の太字表記や文節や改行の工夫がされており、児童が読んでいく上で理解しやすく表現されている。
総 括	○全体を通じて、理科に対しての興味や関心を高めたり、理科を学ぶ有用性を高めたりしやすく配慮されている。特に、「ジャンプ」では発展的な内容や上の学年・中学校へのつながりを意識するなど資料性が高く読み応えもある。 ○全ての単元で問題解決の流れを押さえた構成になっており、科学的なものの見方や考え方を定着させるよう工夫されている。

教科(理科) 書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 理科 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○児童が自然に親しみ、自然の事物・現象に直接ふれる場や機会を設け、見る、触れる、作る、試す、探すなどの感覚に基づいた活動が取り上げられている。 ○見通しをもって観察・実験などを行い科学的に調べる能力や態度を育てるために、単元のはじめに、学習の流れが写真などで示されている。また、小単元毎に学習の流れがわかりやすく表現されている。
特色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得(実社会・実生活との関連を含む)について〉 ○各ページの左右の端が重要語句のまとめとして活用されたり、実験で気をつけることがまとめて記載されていたり、統一感がありわかりやすいレイアウトになっている。 ○導入で位置付けとして掲載した写真について、学習のまとめとして言語による表現活動に活用するなど、学習の冒頭と終末でつながりが意識されている。 ○各学年の「読み物」「資料」には、その単元で学習した内容が、実社会や実生活のどのようなところに活用されているか大きな写真等でわかりやすく記述されている。 〈思考力、判断力、表現力等の育成について〉 ○カードを用いてノートの使い方や書き方を明示し、表現力の育成を目指した構成となっている。また、「話し合い」の場面では、具体例が明記されており思考力・判断力の育成に配慮されている。 ○巻頭の「科学の芽を育てよう」の問題解決の過程とノート指導が関連しており、学習過程が把握しやすくなっている。 〈主体的に学習に取り組む態度の育成について〉 ○見開きのページの中に課題提示からまとめまでの問題解決の流れが要領よくまとめられており、一つの課題に対する学習の流れが一目でわかるようレイアウトが工夫されている。 ○観察・実験の準備や手順、学習過程などにチェックリストが設けられており、学習の流れを確認しながら進めることができる。 〈安全・環境保全について〉 ○安全指導と危険防止の観点から、事故のおそれのある箇所には「注意」のマークが赤字で示されている。また、理科室の使い方や服装・準備の注意点が記載されている。
	○見開きの写真や詳細な図を載せてあり、資料が充実している。 ○科学者の言葉や伝記など読み物資料が充実しており、理科への興味関心が湧くよう工夫されている。
	○ページ全体がカラーユニバーサルデザインで統一されており、色覚障害など特別に支援を要する児童への配慮とともに活字の大きさやフォントなどもユニバーサルデザインの観点を取り入れたものとなっている。 ○まとめの欄には、重要語句を太字表記し「ことば」として記載するとともに単元末には「大事な言葉」として再度確認できるように構成されている。
総括	○観察やまとめの児童のノート例や準備物・単元の流れなどの各チェック、繰り返しの重要語句の確認などが丁寧に構成されている。さらに「ふりかえってみよう」など知識理解の定着を意識したページが充実している。 ○ノートの使い方や書き方について丁寧に詳細な表記がされており、児童の問題解決が効率的に展開でき、表現力が身に付くよう配慮されている。

教科(理科) 書名 項目	未来をひらく 小学理科 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導 要領の教科の目 標とのかかわり	○巻頭の「学習の順序」など学習の流れを明確にすることで見通しをもった学習ができるよう工夫するとともに、科学的に調べる能力や態度を育てるために、単元の導入部分に学習のつながりが記載されている。 ○「達人からのメッセージ」やキャラクターの活用により、児童が学習に興味をもてるよう配慮されている。
特 色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得(実社会・実生活との関連を含む)について〉 ○各学年巻頭には「〇年で学んだこと」があり既習事項をいつでもふりかえることができる。また、巻末には「この1年間で学んだこと」を掲載することで1年間の学習を振り返ることができ、基礎的・基本的な知識・技能の定着に有効である。 ○「資料」「科学のまど」などには、学んだことが活用された内容について紹介し、既習事項と実生活との関連が図られ、科学への興味が湧くよう工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等の育成について〉 ○観察・実験から児童の様々な考えが導き出されるよう展開を工夫するとともに、これらの多様な考えを仲間分けする過程を通して科学的事実へ統合されるよう展開が配慮されている。 ○ノートの使い方を例として載せ、問題解決の流れをノートに記載できるよう工夫されている。また、「学んだことを使おう」を通して、考えたことを自分の言葉で説明する力を養うよう工夫されている。 〈主体的に学習に取り組む態度の育成について〉 ○児童の生活に基づいた自然の事物・現象との出会いを大切にすることで興味・関心を高めて問題解決が進められるよう工夫されている。 ○予想から検証の計画までを話し合いで進められるよう工夫されるとともに、その後の観察・実験へとスムーズに移行することで児童の主体性を生かす展開となっている。 〈安全・環境保全について〉 ○「注意」「危険」マークを付けて、安全指導と事故防止に努めている。また、「理科室で安全に実験しよう」や「理科の安全の手引き」など、はじめて行うことが想定されている場所について、安全指導に関する内容が充実している。 ○環境保全について、「地球となかよし」マークを付けて環境保全に児童の意識が向くよう配慮されている。
資 料	○自然や生き物の観察などでは、実物大の大きさの写真やさし絵を使用したり、拡大されたものには、実物大のシルエットを掲載するなど、実物を見ることができなくてもイメージしやすく工夫されている。 ○小中の連携を含めて、学習の系統性が明記されている。
表現・表記	○文字の大きさ・写真・図のレイアウトについて、バランスの良い紙面になっている。重要な語句に関して太字で示されている。 ○全学年、全単元で学習課題とまとめにアトムマークを使うことで学習の流れの一貫性が強調されている。
総 括	○問題解決の展開や科学的な思考の育成を意識した構成となっている。特に、ものづくりを積極的に導入場面に組み込むなど、自然の事物・現象との出会いを大切に課題を把握させるよう構成されている。 ○「学んだことを使おう」では、発展的な学習として文章で答えを求めるなど表現力の育成を意識して構成されている。

教科(理科) 書名 項目	わくわく理科 61 啓林館
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導 要領の教科の目 標とのかかわり	○自然の事物・現象に対する関心や意欲を高めるために、「やってみよう」という実際に児童が体験したことをもとに導入が図られ、実体験と問題解決が関連を持って進められるよう構成が工夫されている。 ○単元末の「つくってみよう ものづくり広場」では、学習した内容を活用し実感を伴いながら科学的な見方・考え方を養うよう配慮されている。
特色 特 色	〈基礎的・基本的な知識・技能の習得(実社会・実生活との関連を含む)について〉 ○「思い出してみよう」には、単元の導入部分に前の学年で学習した関連する内容が簡潔にまとめられており系統性に配慮して構成されている。 ○単元の冒頭に「学習のめあて」を配置し、その単元で学習する概要を提示することで見通しをもって学習が進められるよう配慮されている。 ○「わくわく理科プラス」や「地域資料集」など、学習内容を身近に感じることができるよう配慮した資料の充実が図られている。 〈思考力、判断力、表現力等の育成について〉 ○別冊で各学年「わくわく理科プラス」が付属している。記述式、書き込み式の冊子で、学習前の既習知識の確認やノートの使い方や書き方、実験・観察の考察を一斉に書かせるのに適している。 ○全ての単元で問題解決の流れに配慮して構成されている。特に、予想や考察を重視し、内容を丁寧に表現することで児童の思考力や判断力、表現力を育てる一助となるよう配慮されている。 〈主体的に学習に取り組む態度の育成について〉 ○単元の導入において、インパクトのある大きな写真や日常生活に関連する資料を提示するなど、児童の興味・関心を高め意欲的に学習できるように配慮されている。「理科の広場」は、児童が単元終了後に主体的に研究し自由研究などに生かせるよう工夫されている。 ○「わくわく理科プラス」では、単元の導入とまとめを関連づけさせ、主体的に学習を進められるようにしている。 〈安全・環境保全について〉 ○「みんなで使う理科室」のページや「！」のマーク、「安全眼鏡」「換気」等、共通のマークを使用して安全指導と事故防止に努めるよう工夫されている。 資 料 ○巻末に「地域資料集」として、各地域の地質資料や化石、科学館についての情報があり、自分の地域を調べるだけでなく、他地域のことについても調べられる。 ○「算数のまど」など他教科との関連が図られている。 ○資料「ひろげよう」を通して、防災教育や環境教育・キャリア教育との関連が図られている。 表記・表現 ○課題文は青文字と記号で書かれ、線で囲まれ見やすく表示されている。 ○課題解決の手順は共通の言葉・色・表記が統一されている。 ○写真に加え、イラストや児童の観察記録などの挿絵が豊富である。
総 括	○「理科の広場」や「地域資料集」「ひろげよう」など多様な資料を豊富に掲載することにより自然の多様性や共通性に気付かせるとともに、それらの知識が整理されて身に付くよう工夫されている。 ○学習の流れがわかりやすく表示されたり、児童の目線での観察記録やノート例が詳細で丁寧に掲載されたりして、誰にでも取り組みやすいレイアウトになっている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員生活科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○具体的な活動や体験をとおした学習となるように、どのような配慮がなされているか。 ○身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫がされているか。
特色	内 容 <基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○健康や安全にかかわること、みんなで生活するためのきまり、言葉遣いや身体の振る舞いにかかわること、いろいろな道具を使うことなど、習慣や技能が身に付くようにどのような工夫が見られるか。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○児童が思いや願いを実現する過程において、考え、工夫し、表現する活動へどのような工夫が見られるか。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○児童の思いや願いを誘発し、活動への意欲を高める上で、どのような工夫が見られるか。 <気づきの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫> ○気づきの質を高めたり、科学的な見方や考え方の基礎を養ったりするために、どのような工夫が見られるか。 <具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫> ○具体的な活動や体験を通して、学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立への基礎を養うために、どのような工夫が見られるか。 <生活科の内容9項目> ○生活科の内容9項目について、どのような活動や素材を取り上げ、具体的な活動や体験を促すために、どのような工夫が見られるか。 ①学校と生活 ②家庭と生活 ③地域と生活 ④公共物や公共施設の利用 ⑤季節の変化と生活 ⑥自然や物を使った遊び ⑦動植物の飼育・栽培 ⑧生活や出来事の交流 ⑨自分の成長 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童が親しみ、進んで利用したくなるために、どのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

項目	書名 新編 新しい 生活 2 東書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学校や地域の実態に応じて、学習活動が展開できるよう、児童の発達の段階や季節の変化などに配慮して、児童の気付きの質を高めるような学習活動が設定されている。 ○児童が身近な人々、社会及び自然と関わる姿が、写真や挿絵で、多様に示されている。また、対象との関係を深めていくために、繰り返し関わる姿が示されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得する工夫＞ ○生活上必要な習慣や技能を身に付けるための「やくそく」「べんりてちょう」などが設けられている。幼児教育とのつながりを図るためのページや活動例を充実させている。 ＜思考力・判断力・表現力等を育成する工夫＞ ○気付いたことを基に考えるための、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの多様な学習活動例を示し、問題解決的な学習活動が設定されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○児童が主体的・意欲的に学習に取り組めるような写真や挿絵、資料を掲載している。多様な活動例、教師の支援例を示し、学習活動を進めやすくなるよう配慮されている。 ＜気付きの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫＞ ○対象と繰り返し関わることで比較したり、試行錯誤したりするとともに、教師の支援や児童の気付きの例を示しながら、自然の不思議さや面白さを気付けるようにしている。 ＜具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫＞ ○学習面では主体的に活動できるよう、生活面では社会のルールや安全上の配慮事項に気付くよう例示するとともに、自立に向け徐々に教師のイラストを少なくするなど工夫されている。 ＜生活科の内容9項目＞ ①学校と生活では、スタートカリキュラムの特設ページを設け、学校生活の様子や楽しさ、安全な登下校、更に様々な人との交流の様子を示し、表現活動へとつなげている。 ②家庭と生活では、一日の生活を振り返り、自分でできること考え、挑戦することで、家庭生活における役割を果たせたことを肯定的に振り返られるようにしている。 ③地域と生活では、「上」で季節ごとに身近な公園に行き、「下」で地域の人々や場所と繰り返し関わり、それらに親しみや愛着をもって交流、表現できるよう配慮されている。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で身近な公園を「下」で図書館を取り上げ、公共意識やマナー、それらを支えている人や様々な工夫に気付けるようにしている。 ⑤季節の変化と生活では、季節ごとに、身近な動植物を観察したり、同じ公園に繰り返し出かけたりしている。季節ごとの伝統行事、節気や節句なども紹介している。 ⑥自然やものを使った遊びでは、「上」で草花や水、土、木の実、木の葉、風、雪、氷などで遊び、「下」で動くおもちゃを工夫してつくり、異学年交流へと広げている。 ⑦動植物の飼育・栽培では、「上」で花、「下」で世話が必要になる「野菜」を取り上げ、「上」で短期間の飼育、「下」でより長期間の飼育を行えるよう発達の段階が配慮されている。 ⑧生活や出来事の交流では、友達、教師、幼児、高齢者、地域の人々、家族、外国の方などと交流し、伝え合う学習活動を通して、楽しさへの気付きと能力育成をねらっている。 ⑨自分の成長では、各巻に様々な交流活動から自分自身の成長に気付けるような単元が設定されている。また、日常的に振り返り、成長を実感するページも設定されている。 資 料 ○上巻末に切り離して使える「ポケットずかん」が設けられている。上下巻末に「べんりてちょう」が設けられている。 ○上巻に、スタートカリキュラムのための「すたあとぶつく」、植物の成長の順序をとらえやすくするために「変形判ページ」がある。小単元名や本文、マーク、「やくそく」など、紙面の各要素の位置が、原則として固定されている。 表記・表現 ○児童に親しみやすいキャラクターが、思考を促すヒントや安全への留意点を投げかけている。 ○多様な児童が落ち着いて、穏やかな気持ちで学習や教科書に向き合えるよう、強い色彩の使用を避け、紙面全体の色調を落ち着いた、淡いトーンで統一されている。
総 括	幼児教育との接続、社会科、理科、総合的な学習の時間への接続が、円滑になるように構成されている。体験活動と言葉がつながり、言語活動の充実が図れるよう資料が示されている。また、気付きの質を高めるための支援例が掲載されている。学びの道筋や活動意欲を高め、主体的な体験活動につながるよう資料が示されている。

書名 項目	4 大日本 新版 たのしい せいかつ
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○児童が主体的に活動する手がかりや見通しをもち、活動や体験を通して、学習したことを実生活に生かせるよう配慮されている。 ○児童が多様な人々、地域への愛着をもつと共に生活習慣や技能が自ずと体得できるよう構成され、自分の特徴や可能性に気づき、成長への理解を深められるよう配慮されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○季節ごとになった大単元構成で、児童の興味を喚起しながら、児童のつぶやきを使い、基礎的・基本的な知識・技能の習得ができるよう内容構成が工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○児童の作ったカードを多用し、取り組みのヒントを与え、児童に考えさせるよう促しが工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○カードや絵地図など児童の文字や絵を多用し、具体的な書き方やつくりやすさを表現して児童が取り組みやすいよう紹介されている。 ＜気づきの質の高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫＞ ○児童の思考を促す投げかけを重視し、答えを示すのではなく児童に考えさせるためのヒントを示し、思考錯誤を繰り返しながら製作するものづくりなどを示している。 ＜具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う＞ ○自分発見の単元などで、学んだことを生活に生かしたりするために、成長を振り返る場面、これからの自分を見つめる場面を随所に設定している。 ＜生活科の内容9項目＞ ①学校と生活では、保幼少の連携がスムーズに図れるよう留意し、学校の実情に応じてスタートカリキュラムが展開できるよう工夫され、基本的な生活習慣を考えると共に、家族のあたたかさを感じ、安心して学校生活が始められるようにしている。 ②家庭と生活では、家族の中での存在価値に気づき、自分の役割を果たしたいという気持ちを高めるような活動の流れが工夫されている。 ③地域と生活では、繰り返しの探検活動でいろいろな人とののかかわりや発見をし、「町のたから」として多様な方法で発表する活動を紹介している。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で身近な公園を、「下」ではお店や公共施設を取り上げ、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では電車やバスの乗り方を紹介している。 ⑤季節の変化と生活では、「上」で季節ごとの公園での自然とののかかわり、「下」で、野原のビンゴゲームや学校生活で実践できる草花遊びを絵で紹介している。 ⑥自然や物を使った遊びでは、水、風、雪、花、葉、木の実等の遊び、「下」で動くおもちゃを作って遊ぶ活動や人とののかかわりを深め伝え合い交流する活動を紹介している。 ⑦動植物の飼育・栽培では、多様な花や野菜の栽培を取り上げ、継続的な飼育・栽培活動を紹介している。「上」で、動物に親しむことに重点を置き、「下」で、ザリガニ、ダンゴムシ、かたつむりなどを取り上げ、工夫して飼育することに重点を置いている。 ⑧生活や出来事の交流では、各活動の中で、教師、友達、幼児、家族や地域の方とのかかわることで気づきの質を高めるとともに、伝え合う活動を促すよう構成されている。 ⑨自分の成長では、「上」で1年間を振り返り、できるようになったことの発表会や新1年生を迎える活動、「下」で自分の成長を振り返り、自分自身への気づきを深め、お世話になった人々への感謝の気持ちを表し、3年生への期待をもてる活動が示されている。 ○上下巻末や単元内に、道具の使い方や動植物の紹介をしている「がくしゅうどうぐばこ」を設け、児童が活動の中で、会話や交流を多様化できるように工夫されている。 ○「透明シートの口絵」「野原のビンゴゲーム」「野原の探検シート」などの仕掛けページや「せいかつことば」で、児童の興味や関心が高まるよう工夫されている。 ○ワイドな紙面を生かし、児童の目線で撮影した写真を数多く掲載し、児童の躍動感あふれる活動場面を示している。 ○活動課題を見開き右上に木の葉で示し、ねらいの明確化を図っている。各見開きの見出しは、落ち着いた色合いのイラストを用いて、児童の思考に沿うように工夫されている。
総 括	自然の不思議さや面白さの実感、理科につながる要素と実感を伴った理解のための多様な学習場面が設定されている。資料「がくしゅうどうぐばこ」は、活動の中で必要に応じて参考にできるよう配慮されている。他教科と関連した活動を多く取り入れ、「調べる」「まとめる」「発表する」と段階を踏むことで、基礎的な表現活動の定着を図っている。

項目	書名 しょうがっこう せいかつ 11 学図
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○目的意識と見通しを持って活動ができるよう内容が、「探検」「栽培」「遊び」「飼育」「成長」の5つの大単元として構成されている。 ○各単元に、連続したストーリーをもたせ、自ら課題を見つけ解決していくための方法を身に付けられるようにしている。
特色	内 容 <基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○大単元全体を通して、児童が自ら問題意識をもって自発的に活動に取り組めるようにしている。スタートカリキュラムに対応した折り込みページが設けられている。 <思考力・判断力・表現力等の育成する工夫> ○「あさがお につき」「野さい 日記」は、書き方を詳細に示し、表現力の基礎や考え方の基礎を育むよう配慮されている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○キャラクターや吹き出し等が、児童の主体的な活動を引き出すように示されている。主体的に活動を広げられるよう「ものしりノート」「学び方図かん」に例が示されている。 <気付きの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫> ○各大単元自体が長期的に継続した活動として設定されているので、対象と繰り返しかわり、気付きを深めていけるよう配慮されている。 <具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫> ○大単元を通して、児童が自ら問題意識をもって自発的に活動に取り組めるように構成されている。4人の登場人物が成長し自立する姿が具体的に見えるように配慮されている。 <生活科の内容9項目> ①学校と生活では、繰り返し学校を探検したり、学校にいる人と関わったりして、見付けたこと・聞いたことを発見カードにし、友達と発表し合う活動を取り上げている。 ②家庭と生活では、家庭生活における家族の仕事を想起させ、家の仕事に挑戦し、家族への感謝につながるように活動を紹介している。 ③地域と生活では、「上」で季節ごとに同じ公園での活動、「下」で繰り返し行った町探検で聞いたことや素敵などところを紹介する活動が示されている。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で身近な公園での活動、「下」で町探検の中で公共物の工夫を発見する活動が示され、「ものしりノート」に様々な公共施設、交通機関を資料として紹介している。 ⑤季節の変化と生活では「町のきせつ図かん」で四季の変化と人々の暮らしの様子が連続の見開きページで示されている。各地域に伝わる伝統行事なども写真で紹介されている。 ⑥自然やものを使った遊びでは、「上」で四季の変化を比較できるように連続して小単元が配列され、「下」で試行錯誤しながらおもちゃづくりができるように構成されている。 ⑦動植物の飼育・栽培では、「上」でアサガオ、「下」で苗から育てる野菜、飼育は「上」でモルモット、昆虫、「下」でザリガニ、ダンゴムシの飼育を中心に取り上げている。 ⑧生活や出来事の交流では、調べたり、インタビューしたりする中で、様々な人々と交流する様子が示されている。 ⑨自分の成長では、「上」で幼児との交流を通して、進級への期待感を高め、「下」で自身の成長を振り返り、成長を支えてくれた人への感謝の気持ちをもつ活動が示されている。 資 料 ○各単元に「ものしりノート」、上下巻末には、「学び方ずかん」「生きもの図かん」があり、各教科との関連や総合的な学習の時間とのつながりが配慮されている。 ○上下巻頭には、折り込みページがあり、「上」はスタートカリキュラムに対応して学校生活が時系列で示され、「下」は町の様子が大きく示されている。 表記・表現 ○大単元ごとに、統一したカラー索引で表示し、児童が教科書を活用しやすいように配慮されている。 ○リード文は、指示的な言葉でなく、児童の主体的な活動を引き出すような表現になるよう配慮されている。
総 括	上下巻とも5つの活動領域に整理し、大単元として構成している。大単元として構成していることにより、各活動内容や学びの系統性が明確になり資料性を高めている。また、全体を通して、3年生以降の教科学習、総合的な学習の時間との接続を考えた資料を充実させ、書いて伝える言語活動を重視している。

書名 項目	せいかつ 17 教出
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習のはじめに「おしゃべりタイム」を示して活動意欲を高め、調べる、作る、交流する、振り返る等の活動を各単元で繰り返す構成になっている。 ○「おうちでチャレンジ」のコーナーを設け、学習を家庭や地域に広げ、自分と身近な人々とのかかわりに関心をもてるよう工夫されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基礎的な知識・技能の習得＞ ○身に付けさせたい習慣や技能は巻末の「ぐんぐんポケット」で、衛生面や安全面はコラムで繰り返し活用できるように配慮されている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○思考と表現の一体化を図るため、多様な表現活動とともに、「書くこと」に重点をおき、気付きのポイントを交えながら支援の言葉を付している。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○児童自らが学習意欲をもち、探究的に取り組めるよう学び方や表現方法を示し、「生活科ノート」や裏表紙に児童の思いや願いを記入できるようになっている。学習内容やヒントなどから活動で、何をどう学ぶか、わかるように工夫されている。 ＜気付きの質の高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫＞ ○上巻では自然事象から科学的なものの考え方の基礎を学ぶ体験活動で、下巻では論理的な思考を促す飼育栽培活動やもの作りから、事物の法則に気付くよう工夫されている。 ＜具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養う工夫＞ ○各単元で体験したことを伝え合い、学び合い、交流しながら、さらに深い学びへと発展させ、自立への基礎を養うことができるように工夫されている。 ＜生活科の内容9項目＞ ①学校と生活では、学校探検を通し校舎内外の探検を繰り返し行い、学校にいる人や上級生に教えてもらったこと、発見したことを発表する活動を紹介している。 ②家庭と生活では、「上」で家庭の仕事調べから、自分でできることや家族が笑顔になることを実践し、そのことを家族や友達に伝える活動を紹介している。 ③地域と生活では、「下」で町探検を2回行い、地域の人との触れ合いや仕事に関心をもてるようにしている。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で身近な公園を、「下」で図書館などに行き、安全面、利用方法や利便性などについて、関心をもてるようにしている。 ⑤季節の変化と生活では、四季を通じて「上」では同じ公園などで自然とかかわって遊ぶ体験を、「下」では町の様子を季節の行事で、学習できるよう紹介している。 ⑥自然や物を使った遊びでは、「上」で草花、土、水、木の実、落ち葉、風などの遊びを、「下」で風、ゴム、磁石などを使って動くおもちゃ作りを紹介している。 ⑦動植物の飼育、栽培では、「上」で花、モルモットや昆虫など、「下」で野菜、ザリガニや昆虫などを取り上げ、栽培や飼育の方法を紹介している。 ⑧生活や出来事の交流では、上下巻全ての活動の中で、教師、友達、幼児、家族、地域の人々との交流の様子を示し、体験したこと等を伝え合う活動を紹介している。 ⑨自分の成長では、「上」で1年生の自分の成長を、「下」で小さいころの自分と比べたり、自分のよい所を探したりして自分自身の成長を、気付く単元が設定されている。 ○上下巻末に「生活科ノート」の書き込みページが設けられ、一人一人が思いや願いを記録し、学習の振り返りに活用できるようになっている。 ○上端に他教科との関連や巻末の手引きのマークの記載がある。また、上下巻末の「ぐんぐんポケット」には、身に付けさせたい習慣や技能がまとめられている。 ○オリジナルキャラクターが学習に必要なヒントを与えたり、具体的な内容を示したりして、気付きのポイントを交え、支援の言葉を付している。 ○上下巻とも学習カードの例が大きなサイズで示されている。また、実物の写真が多数掲載されている。
総 括	上下巻を通して、多様な表現活動が示され、気付きの質が高まるように工夫されている。ナビゲートラインに他教科との関連やねらいを、単元の初めに「おしゃべりタイム」で活動のヒントになる具体的な言葉を示している。上下巻とも年末年始の行事の紹介やお祭りなど、伝統と文化を尊重する資料が充実している。

書名 項目	せいかつ 38 光村
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階構成になっており、児童の心を揺さぶり活動への意欲につながるよう工夫されている。 ○花を育てる時期、季節に触れる時期など、児童や学校、地域の実態に応じて活動時期や期間を柔軟に設定できるよう活動のまとまりごとに単元が構成されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基礎的な知識・技能の習得＞ ○生活上必要な習慣や技能は活動の中で自然に身に付くように工夫されている。きちんと知っておくべきことは「！」マークや特設コーナーに示されている。 ＜思考力・判断力・表現力等の育成＞ ○対話や ICT 機器を使った発表、観察カード、手紙など表現したい内容や目的に応じた多様な例を示している。また、観察カードを冊子にまとめる例も取り上げている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○各単元に「どうすれば、○○○○かな。」コーナーが設けられ、視点や活動のヒントを示すとともに、自ら考えることの楽しさ、面白さが実感できるよう工夫されている。 ＜気付きの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫＞ ○カードの添え書きや学習環境の構成、体全体で体験できる活動から気付きの質を高めたり、科学に対する芽を育てたりするよう工夫されている。 ＜具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫＞ ○各単元が3段階構成になっており、児童の思いや思考の流れを大切に、活動が活発になるとともに、確かな力が身に付くよう配慮されている。 ＜生活科の内容9項目＞ ①学校と生活では、学校を探検したり、通学路の安全を考えたりして、出会った人や物とのかかわりを深め、見付けたことを発表する活動へつなげている。 ②家庭と生活では、「上」で家族の人の「にこにこ」を増やすために何ができるかを考え、実行し、家族の中の自分に気付くような構成になっている。 ③地域と生活では、「下」で町探検を通し、地域の人や物に繰り返しかかわって、地域への親しみや愛着を深められるような活動を紹介している。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で公園を、「下」で公園、点字ブロック、図書館、消防署、駅などを取り上げ、物や施設、人とのかかわりを紹介している。 ⑤季節の変化と生活では、「上」で年間を通して身近な自然に触れて遊び、全身で季節を実感できるように工夫されている。 ⑥自然や物を使った遊びでは、「上」で草花、砂、水、木の実、落ち葉、風などの遊びを、「下」で多様な動き方に着目して作るおもちゃ作りを紹介している。 ⑦動植物の飼育・栽培では、「上」では学校で飼育している小動物や花、「下」では昆虫やダンゴ虫、野菜などを取り上げ、飼育や栽培の方法を紹介している。 ⑧生活や出来事の交流では、上下巻全ての単元で伝え合う活動が位置づけられており、教師、友達、幼児、家族、地域の人々と交流する活動を紹介している。 ⑨自分の成長では、「上」で入学前の幼児を招く活動、「下」で自分の成長について周りの人たちと交流する活動を通して、自分の成長が実感できるように工夫されている。 ○上下巻とも巻末に「きせつのおくりもの」があり、年間を通して活用できるようにしている。オリジナルソングが5曲掲載され、活動をより活発にできるようにしている。 ○栽培活動の単元末に「もっとやってみたい」があり、単元に関連する資料を見開きページで写真や絵で紹介している。 ○カードや吹き出しの言葉は低学年にもわかりやすい表現になっている。またイラスト、写真を大きくし、吹き出しは極力少なくすることで、児童自らが言葉を発するように工夫されている。 ○活動段階を示すマークを付け、思考の流れが明確になるようにしている。
総 括	活動のまとまりごとに単元が構成され、児童や学校、地域の実態に応じて、学習する時期や期間を柔軟に設定できるようになっている。教えたり指示したりするのではなく、活動や気付きのヒントを示すことで、児童の主体的な活動が生まれるように工夫されている。全単元が3段階構成になっており、活動を活発にするオリジナルソングが5曲示されている。

書名 項目	せいかつ 61 啓林館
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○2年間の季節の移り変わりを基に、「上」で「学校と生活」、「下」で「地域と生活」の単元を構成し、4段階の活動場面を明確にし、深められるように配慮されている。 ○学校、家庭、地域の中で、児童が実際にかかわることのできる「自然」「人」「もの」「こと」を学習の対象とし、繰り返し関わっていくことができるよう配慮されている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○公共の意識やマナー、情報と交流の手段・活用場面、基本的な生活習慣を意識した時間の感覚など、特設コーナーを設けて、「自立への基礎」が養われるように配慮されている。 <思考力・判断力・表現力等を育成する工夫> ○身体表現やカード、歌、劇、黒板でポイントを示すなどさまざまな表現方法が紹介され、活動の種類や児童の個性に応じた表現力が身につくよう配慮されている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」の4段階で構成し、活動の流れやめあてを明確にしながら、学習活動を進められるように配慮されている。 <気付きの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫> ○気付きの連続性を意識してスパイラルに学習できるような配慮がされている。定点観測で季節の変化や時間の経過によって気付きが深まるようにしている。 <具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫> ○自立への基礎を養うために、紙面構成で教師や大人の支援や助言の仕方が分かるようにし、児童が気付きを明確化できるように配慮されている。 <生活科の内容9項目> ①学校と生活では、「上」で学校での生活の様子を時間の流れに沿って挿絵で示し、学校を探検したり、学校にいる人と関わったりし、友達との発表会を例示している。 ②家庭と生活では、「上」で、「えがお」というわかりやすいテーマを設定し、自分が家族としての役割を果たすことを通して、家族との関わりを深める活動例が示されている。 ③地域と生活では、「上」で学校の周りや近くの遊び場への探検、「下」で町探検を複数回設定し、まとめでは、様々な活動例が示されている。 ④公共物や公共施設の利用では、町探検の発展として公共施設に出かける活動を紹介している。場に応じた行動やマナー、公共交通機関の利用の仕方は巻末資料にまとめている。 ⑤季節の変化と生活では、季節ごとに変化する校庭や公園、地域の様子が示されている。「下」の「きせつのとびら（夏と冬）」で地域にある季節の行事などを紹介している。 ⑥自然やものを使った遊びでは、「上」で自然を利用した遊びや昔遊び、「下」で風や空気、磁石などを利用したおもちゃを作って遊ぶ活動例を示している。 ⑦動植物の飼育・栽培では、「上」で花や小動物を世話することを通して気付きを促し、「下」でより丁寧な世話が必要になる野菜の栽培、飼育では、命のつながり意識させている。 ⑧生活や出来事の交流では、幼保との交流は「教えよう」という立場で、地域の人や高齢者、家族との交流では「感謝を伝える」立場で伝え合う活動を紹介している。 ⑨自分の成長では、「上」で進級への期待感を高め、「下」で自分自身の成長を振り返り、成長を支えてくれた人への感謝する表現活動を紹介している。 ○生活のマナーや学習の仕方、自然の図鑑、遊び道具の作り方などをまとめて、上巻巻末に「わくわくずかん」、下巻巻末に「いきいきずかん」に示している。 ○別冊教科書「せいかつたんけんブック」は、探検の際に観察のポイント、公共施設のマナーや安全に関する内容がまとめられている。実寸大資料を掲載している。 ○学習活動の段階に応じてマークやキャラクターが異なり、活動や気付きが深まるような投げかけが吹き出しに示されている。 ○小単元名など活動の段階などを示す位置が基本的に固定されている。見開きの紙面にしたり、イラストを活用したりし、どの児童にもわかりやすくなるよう配慮されている。
総 括	上下巻、別冊の3冊構成で、別冊は野外活動の際に活用できるよう教科の特性に配慮した構成にしている。学習活動と巻末資料と分けて構成したり、教師の支援の在り方を挿絵で示したりしている。コミュニケーション活動や言葉や文字で思いを表現することによる交流場面、幼保との連携、家庭との連携、3年以上の教科学習との連携など工夫されている。

書名 項目	わたしとせいかつ 116 日文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○単元ごとに、体験活動で意欲を高め、自然との共生、多様な人と共同で行う活動を多く設定し、多様な対象とのかかわりを通して気付きの質を高められるよう構成されている。 ○身近な人々や施設の利用を通して地域のよさに気づき、親しみや愛着を持てるよう構成されている。
特 色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○イラストで吹き出しの形を示しながら、習慣や技能が自然に身につくよう配慮されている。約束、マナーなど気をつける事柄もイラストで取り入れている。 ＜思考力・判断力・表現力の育成＞ ○多様な学習カードや作文、俳句、詩、を紹介し、考えの表現方法を選択できるよう配慮されている。単元ごとの整理や振り返りを多面的に描いてあり、単元全体の見通しをもてるよう構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○意欲的に活動する児童のイラストが上下巻を通して描かれ、同年齢の友達が活動していく中で成長する姿を、一体感をもって学習できるよう工夫されている。活動を促す多様な写真、学習カードや、活動をまとめた多様な作品例が示されている。 ＜気付きの質を高め、自然の不思議さや面白さを実感する工夫＞ ○答えでなく、活動を豊かにするヒントや問いを示したり、季節ごとに同じ町の商店街や公園で定点観測的な活動をしたりして、繰り返し触れることで、様々な気付きの高まりを促している。 ＜具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う工夫＞ ○町探検などにおいて、身近に働く人を直接取材する活動を取り入れ、児童が能動的、継続的に活動できるよう工夫されている。 ＜生活科の内容9項目＞ ①学校と生活では、学校は楽しいところであることを写真や絵で紹介したり、探検してきたことを掲示したり、ジェスチャーや歌、絵で発表する活動が示されている。 ②家庭と生活では、「いえのしごとしらべ」から自分でできることを家族のために増やしていく活動を取りあげたり、家族への感謝カードの製作を紹介したりしている。 ③地域と生活では、「下」の町探検では、地域の人との様々な交流活動から、見付けてきたことをカードや絵地図などで表したりする活動を紹介している。 ④公共物や公共施設の利用では、「上」で道路での歩き方、「下」では、公民館、図書館、電車、バスの利用の仕方、点字の表示について紹介している。 ⑤季節の変化と生活では、同じ場所や公園での自然や人と触れ合う活動を示し、季節ごとの動植物の変化や遊び方など多くの場面を設定している。 ⑥自然やものを使った遊びでは、「上」で公園や水路などで遊び、草花遊びや昔遊びなどを、「下」では、材料を生かして手作りおもちゃを工夫して製作する活動を紹介している。 ⑦動植物の飼育・栽培では、「上」では、6種類の花の種の育ちを写真で紹介し、「下」で、多様な野菜の育て方、ザリガニやハムスターの飼い方を紹介している。 ⑧生活や出来事の交流では、学校の楽しさを家庭で話す場面や、困ったことを相談したり、お世話になった方々を発表会に招待したりする場面などを紹介している。 ⑨自分の成長では、「上」で1年間の思い出を振り返り、まとめ方の紹介、発表会を示し、「下」で自分の成長記録を作り、周りの人々へ「ありがとう」カード渡す活動を取り上げている。
資 料	○単元内や上下巻末に、遊び方、植物図鑑、季節だより、伝え方、調べ方、福祉、環境、防災、安全などについての資料「なんでもずかん」がある。 ○スタートカリキュラムとして、保幼小の連携ページ「いちねんせいになったら」で、学校生活を安心して送れるよう構成されている。
表記・表現	○登場する児童たちの名前を紹介し、物語のように主人公として活動させ、紙面の児童に親近感を持てるように工夫されている。表紙をシャボン玉（上）・ザリガニ（下）のイラストにして活動意欲を高めるように工夫されている。 ○目次に点字の表記や記号の立体表記があり、児童の興味を促している。見開きページの右端に側欄、右下にめくりを定め、わかりやすいように示されている。
総 括	写真、イラスト、学習カードを多用し、児童の意欲を高めるよう工夫されている。単元ごとに絵や学習カード、立体作品など様々な表現方法でまとめ、整理や振り返りの活動を紹介している。巻末に「なんでもずかん」を設け、活動に必要な資料が示されている。左から右へ、ストーリー展開し、活動の流れが把握しやすくなっている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員音楽科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○表現及び鑑賞の活動を取り扱うために、どのような工夫が見られるか。 ○音楽を愛する心情と音楽に対する感性を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○音楽活動の基礎的な能力を培うために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○表現及び鑑賞の活動を通して音楽活動の基礎的な能力を習得させるために、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きによって生み出される音楽的な面白さやよさを感じ取るためにどのような工夫が見られるか。 ○音楽に関する用語や記号などを音楽活動と関連付けながら理解させるためにどのような工夫がみられるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○児童が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。 ＜教材の選択＞ ○歌唱、器楽、鑑賞の教材の選択についてどのような工夫がみられるか。 ○音楽づくりの活動のために、どのような工夫がみられるか。 ＜表現及び鑑賞の活動の関連＞ ○〔共通事項〕と歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の活動の関連には、どのような工夫がみられるか。 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・楽譜などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

項目	書名 小学音楽 音楽のおくりもの 17 教 出
教育基本法、学校教育法の下的小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○基礎的な学習の主要部分と発展的な学習の選択部分で構成され、学校や地域の実態に応じて、学習内容が弾力的に扱えるようになっている。 ○我が国の音楽を大切に、世界の音楽を尊重できるような配慮がされており、さまざまな時代や多様な種類の音楽に触れられるように工夫されている。
特色	＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○〔共通事項〕が各題材のページ右上に示されていて、文章中にも同じマークが使われている。 ○リコーダー奏法の習得は、指の動かし方等写真を用いて説明されている。 ○4学年以上には、「スキルアップ」として、歌声とリズム練習のページがある。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○鑑賞のポイントを題材のめあての下に示し、〔共通事項〕をたよりに聴くように設定されている。 ○3、4、5学年には「歌声」ページがあり、歌い方が解説されている。 ○鑑賞のポイントが示され、各学年1か所ずつ、気付いたこと、感じたことを書きとめるスペースが設定されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○てんとう虫のマークのところに活動のポイントが示されている。 ○「もっとあそぼう」では発展的な活動が示されている。 ＜教材の選択＞ ○我が国の音楽では、感動した気持ちを次ページで表現できるよう設定されている。 ○オーケストラの楽器とスコアなどに触れ、中学校で音楽の構成を聴き取る活動につなげられるよう配慮されている。 ＜指導内容の明確化＞ ○鑑賞では、「ききどころ」として〔共通事項〕が挙げられ、その上に指導内容が明記されている。 ＜表現及び鑑賞の活動の関連＞ ○鑑賞から表現につなげており、イメージや思いをもてるよう配慮されている。 ＜その他＞ ○5学年に、変声期への配慮の記述がされている。 ○「さんぽ」は全学年巻末に手話と一緒に掲載され、各学年が学習の段階に合った楽器を担当して全校合奏ができるように構成されている。
資料	○1、2学年11曲、3学年9曲、4学年14曲、5学年13曲、6学年15曲を「音楽ランド」として巻末に掲載されている。 ○4学年以上の裏表紙には有名なプロの演奏家のメッセージで、音楽への意欲が高まるよう配慮されている。 ○日本のうた、おまつり、オーケストラは、写真が見開きで掲載されている。 ○巻末には、学習内容に合わせた音楽のもとと音楽を表す言葉が掲載されている。
表記・表現	○視覚的に理解できるよう、強調する言葉が色分けされている。 ○記号や音符、休符を新しく覚えるときには、ページの端に表示されている。 ○同じ〔共通事項〕や同じテーマで色分けされている。 ○1学年から3学年では、透明フィルムのページで表記が工夫されている。また、全学年に折込ページが設定され、大きな写真が掲載されている。
総括	○学習内容が豊富で、音楽の仕組みを理解したり、児童を引き付けたりするための構成が工夫されている。

項目	書名 小学生の音楽 27 教 芸
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標との関わり	○6年間をとおして段階的・系統的な学びが発展するように、単元の構成が工夫されている。 ○我が国の伝統的な音楽文化や日本語の美しさ、諸外国の音楽が教材として取り上げられ、豊かな情操を培えるよう工夫されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○先生の後について歌ったり（1学年）、指の動かし方を確かめながらリコーダーを演奏したり（3学年）、段階的に技能が習得できるよう工夫されている。 ○音符や休符を練習する「書いてみようコーナー」や、新しい知識を説明する「新しく覚えること」の設定がされている。 ○各学年の発達の段階に応じた声の出し方が、説明されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○3学年と4学年には、聴いて感じたことを書きとめるスペースが設定されている。 ○5学年と6学年の「詩と音楽を味わおう」で、言葉と音楽の関連に触れられている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○「ダン」というキャラクターの問いかけにより、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ＜教材の選択＞ ○めあての内容が明確にとらえられる楽曲が取り上げられている。 ○音楽づくりは、全20か所中13か所が選択形式に設定されている。 ○共通教材は、右ページで自然や風習など意識できるように設定されている。 ○世界の音楽は、ポイントを絞って鑑賞できるように構成されている。 ○6学年では、音楽の仕組みに触れることで、中学校での音楽の構成を聴き取る活動につなげている。 ＜指導内容の明確化＞ ○題材ごとに指導する〔共通事項〕が、学習目標や学習活動などに示されている。 ＜表現及び鑑賞の活動の関連＞ ○聴き取ったことをもとに表現に生かしたり、表現したことを鑑賞で確認したりできるよう配慮されている。 ＜その他＞ ○5学年に、変声期への配慮が記述されている。 資 料 ○3学年以上の「音楽プリズム」では、音楽の知識や考え方などに気付き、音楽への意識や関心を高められるように配慮されている。 ○楽器の演奏場面、美しい風景など、写真が効果的に使われている。 ○全学年の巻末に「歌いごう日本のうた」、3学年以上の巻頭に「心をつなぐ歌声」、巻末に「鑑賞資料」「音楽の歴史をつくった人」のページが設定されている。 ○「ふり返りのページ」により〔共通事項〕の定着に配慮されている。 表記・表現 ○図形楽譜を2学年以上に使用し、視覚的に音の高低や長短が捉えられるよう配慮されている。 ○題材のまとまりは同じ色で表記され、見通しが意識できるよう配慮されている。 ○低学年では、文章の中に楽器の絵が使用されている。 ○ユニバーサルデザインの理念によるシンプルな色彩への配慮がされている。
総 括	○学習内容を精選し系統的に理解するために、題材のめあてやそれに即した楽曲の選定など「学力」を身に付けるための構成が工夫されている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員図画工作科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○創造的な技能や鑑賞の能力を培う上で、どのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○発想や構想の能力や鑑賞の能力を培う上で、どのような工夫が見られるか。 ○「言語活動の充実」について、どのように扱っているか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにする上で、どのような工夫が見られるか。 ＜題材の設定＞ ○児童の表現（作品等）の選定について、どのような工夫が見られるか。 ○初めて扱う材料や用具について、どのような工夫が見られるか。 ○鑑賞の対象の取り上げ方や表現（作品等）との関連について、どのような工夫が見られるか。 ○〔共通事項〕を指導する上で、どのような工夫が見られるか。 ＜環境問題への対応＞ ○材料等の準備や片付けをする上で、どのような工夫が見られるか。 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の関心や意欲、理解を高めるため、言語などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

項目	書名 図画工作 9 開隆堂
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○児童の活動の様子や事後の鑑賞の様子、そして児童が伸び伸びと表現した参考作品が示され、児童の学習意欲を喚起するように工夫されている。 ○材料などとふれながら考えていくことが、表現の始まりにおける発想や構想の能力を高める手段として位置付けられており、発想力を損なうことなく、創造的な技能を培うような題材が示されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○題材名の上に、その題材を通して身に付けたい力が「図画工作で大切にしたいこと」として、児童にもわかるような言葉で示されている。 ○各学年でおさえるべき技法が示された「パレットコーナー」や用具の使い方が図や写真で示された「道具箱」により、進んで学習に取り組めるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○発想や構想を促し、広げるような題材の設定と参考作品を製作した児童の思いや表現の過程が写真や文で紹介され、表現・鑑賞が深まるように工夫されている。 ○題材の最後には「ふりかえって、はなしあおう」を設定し、友達や先生と話しながら、コミュニケーション能力を高めていけるように配慮されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○製作の手順や道具の使い方の掲載を最小限にとどめており、児童が試行錯誤しながら学習できるように工夫されている。 ＜題材の設定＞ ○一つの題材において、見方や考え方の違う作品が示され、児童の多様な発想や構想の能力が育まれるように工夫されている。 ○巻頭には児童が親しみを覚えるような作家の作品、巻末には児童や学校の取り組みなどが紹介され、鑑賞の題材が充実している。 ○造形的なものの見方や考え方を養うため、その題材で大切にしたいことがマークとともに具体的な文章で示されている。 ＜環境問題への対応＞ ○再利用できる材料は「材料はたからもの」にイラストで、後片付けで配慮するべき点はかたづけマークとともに写真やイラストで具体的に示されている。 資 料 ○各学年巻末の「みんなのギャラリー」「造形コレクション」は、発想や構想のヒントとして、身近な形や色を味わい、自らの作品に生かせるように工夫されている。 ○レイアウトは児童が見やすく、活動したいという意欲がわいてくるように、作品や活動の情景などを大きく掲載し、美しさや楽しさが伝わるように工夫されている。 表記・表現 ○題材名の下や横に、発想や構想の手がかりとなる言葉が示されており、児童の造形的な創造活動が高まるように工夫されている。 ○教科書の内容がすべての児童にきちんと伝わるように、識別しやすい配色や形状、写真等の配置が紙面全体に行きわたり、工夫されている。
総 括	○全体的に児童の発想力・表現力を高めることを重視した内容になっている。題材の提示の仕方や指導内容の説明がきめ細かく示されている。表現の主体が児童となるように、発想や構想の能力を発揮している児童の作品が示されている。 ○児童が「つくりたくなる」「自分にもできそうだ」と思わせる様々なしかけが随所に見られる。 ○作品や写真を大きく掲載するために大判化し、A4判となっている。

項目	書名 図画工作 116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○活動のきっかけとなる文章が掲載されていたり、キャラクター（チーロさん）が活動のヒントを与えたりすることで、児童が取り組みやすく、意欲が高まるように工夫されている。 ○題材によっては、表現の始まりにおける発想や構想の過程が写真や文章で紹介され、児童が活動の見通しをもって取り組めるように構成されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○児童が発想や構想を広げるための基本的な仕組みの作り方が、イラストで丁寧に分かりやすく示されている。 ○巻末の「使ってみよう材料と用具」では、材料や用具の取り扱いが写真やイラストで丁寧に示され、造形的な創造活動の基礎的な能力が培えるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○「学習のめあて」が題材の冒頭で示され、その題材で育てたい資質や能力が児童にも伝わりやすくなるように工夫されている。 ○作品の写真には、作品に対する思いがつくった本人の言葉で示されており、児童が作品について語りやすいように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○仕組みの作り方が分かりやすく示され、児童が活動しやすく、そして創造的な技能を働かせることができるように工夫されている。 ＜題材の設定＞ ○児童の姿が見えてくるような表現になる題材が示されている。 ○どのような視点で鑑賞をすすめていけばよいかのヒントが文章で示されており、鑑賞の学習を深めていく過程が紹介されている。 ○「形や色などをとらえる」ことができるように、「学習のめあて」において、重点化された観点が、下線とともに示されている。 ＜環境問題への対応＞ ○「かたづけ」では、材料の有効利用や再利用が示され、環境問題への関心が高まるように工夫されている。 資 料 ○それぞれの題材において、四つの「学習のめあて」に対応する参考作品が示されており、身に付けさせたい資質や能力が具体的にわかるように工夫されている。 ○活動の情景写真が多く示され、大小のメリハリをつけることで誌面に動きをつくり、児童が興味・関心をもつことができるように構成されている。 表記・表現 ○リズム感のある言い回しや擬音語を用いた感覚的な言葉による題材名が示されており、児童の興味をひくように工夫されている。 ○色とアイコン、文字を組み合わせることにより、すべての児童が識別できるように示されている。
総 括	○それぞれの題材に必ず「学習のめあて」がわかりやすい言葉で示されており、児童が目的意識をもちながら活動を進めることができるように工夫されている。 ○題材数が多く、かつ様々な表現を幅広く扱えるように構成されている。参考作品の多くは具体的な対象が示され、児童にわかりやすいように工夫されている。 ○どんなランドセルにも入るように、A4判より2センチ短いレターサイズとなっている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員家庭科調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○家庭生活を大切にし、自分も家庭生活を支える一員としての自覚をもち、生活をよりよくしようとする態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識及び技能を習得する工夫＞ ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるためにどのような工夫が見られるか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○学習した知識・技能を活用し、身近な生活の課題を解決する力を育成するために、どのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○自分の目標や課題を見付け、見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができるようにするために、どのような工夫が見られるか ○家庭生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度をはぐくみ、家庭生活を大切にしている心情を育成するためにどのような工夫が見られるか。 ＜実践的・体験的な学習活動の工夫＞ ○生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育成するためにどのような工夫が見られるか。 ＜中学校家庭科の学習内容との関連＞ ○小学校家庭科での学習を基盤として中学校の学習と関連させるためにどのような工夫が見られるか。 ＜安全や衛生への配慮＞ ○用具などの安全な取扱いや衛生の管理について、どのような配慮がなされているか。 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・単位などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

書名 項目	
新編 新しい家庭 2 東 書	
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり 特 色 内 容 資 料 表記・表現	○学習指導要領の「家庭科の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取り扱い」に従い基礎的・基本的事項がもれなく適切に取り上げられている。 ○家族や家庭生活は子どもの生活の基盤となるという考えから、全ての大題材で家族や家庭生活と結びつくように構成されている。また、学習した知識や技能を生活の中で生かす視点や家族のためにできることを示唆する内容が示されている。 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○各題材に学習のめあてとそれに対応した振り返りの場面や「これだけはできるようになろう」のコーナーが組み込まれ、基礎的・基本的な知識や技能の習得ができるよう工夫されている ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○「D o ! 活動」のコーナーを設定し、学習内容と生活を結びつける内容が掲載され、生活場面で考えたり調べたりしたことを表現できるように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○児童にとって身近な場面や写真、イラストを示し、課題意識をもって主体的に学習ができるように工夫されている。 ○すべての大題材で、内容が家族や家庭生活と結び付くよう配慮され、家庭生活を大切にすることができるよう構成されている。 ＜実践的・体験的な学習活動の工夫＞ ○振り返りの場面や自由研究で、各題材の中で学習したことを生かして生活をよりよくしようとする実践的な活動ができるように工夫されている。 ＜中学校家庭科の学習内容との関連＞ ○中学校の技術・家庭科の家庭分野との学習内容の関連を示すために「関連」のマークを付け、中学校の学習へ円滑に接続できるように配慮されている。 ＜安全や衛生への配慮＞ ○安全や衛生への注意喚起ができるよう「安全」のマークをつけている。 実習では、横に流れるレイアウトを用いて、見開きで概観することができるように工夫されている。また、巻末には実習や製作などの実物大の見本を掲載し、自分の手を載せてシミュレーションができるように工夫されている。さらに、「いつも確かめよう」につめ見出しを取り入れ、必要な時にいつでも確かめて基礎的・基本的な知識や技能の定着を図れるように工夫されている。 カラーバリアフリーの観点を取り入れ、文字はユニバーサルデザインフォントを使用して、重要な語句は太字で分かりやすいように記載されている。また、本文と資料部分が明確に区別できるように太い罫線を使う、背景に色を付けるなどの工夫がされている。
総 括	題材ごとに、課題発見、課題解決、活用といった問題解決的な学習ができるように構成され、児童の発達の段階に応じた基礎的・基本的な知識や技能が習得できるよう工夫されている。また、今日的な課題では食育の果たす役割について、繰り返し学習できるように工夫されている。安全・環境・防災・消費者教育について、学習内容と関連付けて取り上げられ、特定のマークを付けてわかりやすく示されている。

項目	書名 小学校 わたしたちの家庭科 9 開隆堂
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習指導要領の「家庭科の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取り扱い」に従い、基礎的・基本的な事項をおさえた学習ができるように構成されている。 ○家族や身近な人との関わりやふれあいを大切に、家族の一員として生活をよりよく改善しようとする態度を育成する内容や、身に付けた知識や技能を季節や行事と関連付けて実生活に生かせるように示唆する内容が示されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞ ○題材数が多く、平易なものから難易なものへ繰り返し積み上げる学習が展開され、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等の育成＞ ○各題材の学習のプロセスに、話し合う活動、考える活動、実践する活動が設定され、自ら考えたことや実践したことを表現できるように工夫されている。 ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ ○学習目標と振り返りが対応し、学習の流れが明確である。児童の生活に直結した具体例を取り入れ、主体的に問題解決ができるように構成されている。 ○「家庭生活と家族」の題材が2年間の学習を通して、衣食住の学習と結びつくよう配慮され、家庭生活を大切にする心情が育めるように工夫されている。 ＜実践的・体験的な学習活動の工夫＞ ○実習や製作例などを豊富に取り上げ、「生かそう」や「チャレンジコーナー」で、よりよい生活をめざし実践的な活動ができるように工夫されている。 ＜中学校家庭科の学習内容との関連＞ ○家庭科を初めて学習する巻頭の見開きの頁と2年間のまとめの学習の頁を関連させ、さらに、中学校での技術・家庭科に意欲をもたせるように配慮されている。 ＜安全や衛生への配慮＞ ○巻頭の折り込み頁に、安全・防災についての基本的事項がまとめられ、いつでも確認できるよう配慮されている。食物アレルギーの対応について記載されている。 資 料 実習では写真が多く示され、横に流れるレイアウトを用いて、見開きで概観することができるように工夫されている。また、生活の中で使われる家庭科に関する言葉を「ひと口メモ」で解説したり、家庭科で使われる用語一覧を掲載したりして、家庭科としての言語能力を育成できるように工夫されている。つめ見出しを取り入れ、四つの内容項目を色で区別し、学習の見通しがもてるように配慮されている。 表記・表現 カラーバリアフリーの観点を取り入れ、重なった図の示し方、隣接する部分の配色や図中の引き出し線など、全ての児童に読み取りやすいように配慮されている。また、5・6年の配当の漢字の初出箇所にはふりがなをつけたり、重要な語句は太字にして記載したりと工夫されている。
総 括	題材ごとに課題を問いかけ、習得、活用、探求の三つのステップで、児童が問題解決的な学習に主体的に取り組めるように構成されている。また、繰り返し、積み上げ学習で基礎的・基本的な知識や技能の習得ができるように工夫されている。今日的な課題では、食育が重視されている。安全・防災・環境・消費者教育などは特定のマークを使用して、学習内容と関連付けて取り上げ、随時確認できるよう配慮されている。

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会専門員体育科（保健）調査の観点

項目	観 点
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○自らの生活行動や身近な生活環境における学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うために、どのような工夫が見られるか。 ○楽しく明るい生活を営む態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○基礎的・基本的な知識を確実に習得させるために、どのような工夫が見られるか。 ○身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容の重視のために、どのような配慮がなされているか。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○知識を活用する学習活動を取り入れるために、どのような工夫が見られるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○児童が学習に興味をもち、自主的、自発的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○中学校の内容につながる系統性のある指導ができるようにするために、どのような工夫が見られるか。 資 料 ○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。 ○さし絵、写真、図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。 表記・表現 ○児童の理解を高めるため、言語や記号・用語・単位などの使い方にどのような工夫が見られるか。 ○特別支援教育の視点から、障害その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすくするため、どのような配慮がなされているか。
総 括	(全体的な特徴、その他)

書名 項目	新編 新しい保健 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○主体性のある日本人を育成するための基盤となる道徳性や健やかな身体を養うための教材や学習活動を重視して構成されている。 ○毎日を笑顔で健康に過ごすために、生涯にわたって「生きる力」の基礎となる心身の健康や安全について理解し、実践できる子供を育成することを目指している。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○各項の冒頭に「学習課題」を明示、学習内容は「学習活動」として示し、「話合ってみよう」「ふり返ってみよう」「考えてみよう」「活用して深めよう」と学習活動を言葉で明記し、学習の流れと活動内容がひと目でわかるように構成されている。 ○1単位時間の内容を1見開き（2ページ）で構成し、活用しやすい。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「知識を活用する学習活動」を重視し、授業のハイライトとなる場面に、学んだ知識をもとに、思考・判断・表現する活動を入れて構成されている。 ○各章末に「学習をふり返ろう」があり、各時間で学んだ内容を自己チェックしながら確認できるように構成されている。 ○知識・理解の内容についてふり返り、学習したことを生活で実践する態度について確認できるように構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○ワイドな紙面で、資料性が高く、授業の流れがひと目でわかるように構成されている。 ○課題解決に結びつく視点やヒントを吹き出し文で示し、課題解決に見通しがもてるように構成されている。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○高学年の「心の健康」で、不安や悩みの解決方法について自己肯定感を高める活動例や予防方法などを紹介している。中学校で学習する「欲求やストレスへの対処」へスムーズに対応できるように構成されている。 ○効果的な写真や図を用いて、資料に沿って課題について考えたり、ホームページアドレスを多く掲載し、調べ学習や発展的な学習を支援したりすることができるように構成されている。 ○安全マップや24時間いじめ相談ダイヤルなど、今日的な課題に対応した資料が多く掲載されている。 ○ユニバーサルデザインフォントを活用し、カラーバリアフリーの観点で配色され、見やすくわかりやすいように構成されている。 ○判型の横幅が広く、ワイドな紙面を活用して資料性が高く見やすくなるように構成されている。
総 括	○主体的な学習を促し、確かな学力の定着と実践力を育成する構成であり、資料の写真や図もわかりやすく、全体として活用しやすい印象である。 ○身近な生活に視点を置き、健康安全に関する内容を実践的に理解することを意識して構成されている。書かせるための問いかけがわかりやすく、書き込み欄も大きく書きやすい。

項目	書名 新版 たのしい保健 4 大日本
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○身近な場면을教材として取り上げており、児童の興味・関心や気づきなどを引き出し、課題を解決し、学習したことを直接日常生活へ活用する「生きる力」の理念を実現できるように配慮されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○学習の進め方を図で示したり、学習をナビゲートするゲームを提示したりして、学習への興味・関心を高め、積極的に学習に取り組むことができるように構成されている。 ○1単位時間の内容を1見開き（2ページ）で構成し、課題把握・発見→思考・判断・表現活動→まとめ→活用の流れで学習できるように構成されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」などの活動場면을授業の流れの中に設け、能動的な思考や判断を促すことによって、課題解決へ向かうことができるように構成されている。 ○日常生活で起こる人間関係や心の諸問題に積極的に対処できるコミュニケーションスキルなどのライフスキルが身に付くように構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○学習の最初に課題を提示し、その時間の学習内容を明確に示してあり、児童が自らの生活を振り返るなどして、見通しをもって主体的に学習に取り組めるように構成されている。 ○課題を解決していくための思考を促す投げかけを、子供のキャラクターの言葉で行い、主体的に学習に取り組めるように構成されている。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○第6学年の「地域の保健活動」では中学校との系統性を考慮して、保健所や保健センターでの活動をイラストで表し、ノートの記入例も示して構成されている。 資 料 ○学習の参考や内容の理解に役立つ写真やイラストを豊富に活用したり、ホームページの検索ワードを掲載したり、調べ学習や発展的な学習を支援するように構成されている。 ○第4学年の身長の変化や食生活を調べる学習ではシールを採用し、学習意欲を高めるとともに、学習が効率的に展開できるように構成されている。 表記・表現 ○見やすく分かりやすい紙面づくりに努めており、カラーユニバーサルデザインの視点で構成されている。
総 括	○課題解決的な学習を通して、健康・安全に関する知識や技能を習得していくようになっており、身近な生活への問いかけを通して学習意欲を高め、自ら進んで実生活に活かせるように構成されている。 ○生涯にわたって健康の保持増進を図り、明るく楽しい生活を営むために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるようになっており、小さな誌面ながらコンパクトにわかやすく構成されている。

項目	書名 わたしたちの保健 207 文教社
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○学習を児童の側からとらえ、自分の心身への気付きや身近な生活行動・生活環境の中から学習課題を見付け、基礎的・基本的な知識を習得したり、知識を活用したりしながら実践的に理解するとともに、自ら課題を解決できるように構成されている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○習得した知識を活用し、課題解決的な学習ができるように、本時の課題を問いかけ、学習のポイントを理解できるように構成されている。 ○1単位時間の内容を1見開き（2ページ）で構成し、活用しやすい。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○学校・地域のイラストを多く活用し、単元の学習内容を見通した構成になっている。 ○学習したことを書き込む箇所が随所にあり、自分で考えたり判断したりして、考えを深めることができるように構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○多様な記入欄が設けられており、書き込む活動を通して、主体的に楽しみながら学習できるように構成されている。 ○今日的な健康、安全の問題を積極的に取り上げ、近年増えてきた事故などの事例や安全対策についても掲載している。 ○単元の初めには、各学年に応じた作業や資料を提示して、単元の見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができるように構成されている。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○考えられる様々な場面を設定し、学習したことを活かしながら自分で考え、行動できるように説明している。 ○防災の意識を高めるために、事故に対処する方法や日頃の備えについても掲載している 資 料 ○アスリートからのメッセージやコメントなどで、周りの人に支えられているという感謝の気持ちをもちながら学習できるように構成されている。 ○課題追究に必要な写真・イラスト・グラフなどの資料を精選し、視覚効果を重視して構成されている。 表記・表現 ○大きめのA4サイズで、1ページごとのまとまりがわかりやすく見やすい。 ○子供のキャラクターの会話や保健室の先生、警察官などが登場し、学習に親しみを持たせ、内容の習得の手助けになるように工夫されている。
総 括	○基礎的・基本的な内容を説明する文章は簡潔に表現されて、わかりやすい。 ○身近な生活に視点を置き、健康・安全に関する内容を実践的に理解することを意識して構成されている。 ○学習を通して、関連する幅広い知識などを身に付けるとともに、家族や周りの人に支えられていることが理解でき、感謝の気持ちをもてるように構成されている。

項目	書名 新版 小学保健 208 光 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うため、健康の大切さを理解し、望ましい生活習慣が身につくことを重視している。 ○習得すべき基礎的・基本的な知識や原理・原則などの学習内容を明確にし、活用する思考力・判断力等を重視している。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○習得すべき基礎的・基本的な知識や原理・原則などの学習内容を、コーナーとしてまとめ、理解に役立つように構成されている。 ○生活習慣の乱れや生活環境の変化、ストレスなどにかかわって深刻化している様々な問題について、実践的に理解するように構成されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○習得した知識を活用して課題解決するための学習活動を、「思考・判断・表現」に合わせて三つのパターンで構成されている。 ○考えたことを書いたり、自分の生活をチェックしたり、自分の考えをもとに話し合ったりする活動が示され、学習活動がわかりやすく構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○キャラクターにより学習がスムーズに流れるようにフォローされ、きめ細やかな学習活動の展開を児童の目線からサポートし構成されている。 ○養護教諭・学校医などの専門的な立場から、学習内容について助言するように構成されている。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○教育の情報化に対応して、学習内容に関連する調べ学習ができるようにホームページアドレスが掲載されている。 資 料 ○イラストや図表、写真を多用して、視覚による理解を図り、知識の習得を促進するように構成されている。 ○興味・関心を刺激したり、学習内容を補足したりするひと言コーナーがあったり、学習内容に関連したホームページアドレスが掲載されたりしている。 表記・表現 ○文章はわかりやすく、簡潔な記述になっている。未習の漢字や、学年で初めて習う漢字、専門用語にはふりがながついている。 ○バリアフリーの視点を重視するために、ユニバーサルデザインフォントを使用し、色弱の児童に配慮した色使いになっている。
総 括	○学習指導要領に示された内容を、発達の段階や興味・関心に即してわかりやすく具体化し、身近な生活と関連を図って、日常生活での実践に結びつけることができるように構成されている。 ○学習したことが単なる知識の習得に終わることなく、児童自らが学び、自ら考える「生きる力」を養い、健康なライフスタイルを確立できるように構成されている。

項目	書名 新・みんなの保健 224 学 研
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○様々な健康課題に対応し、健康・安全についての基礎的・基本的な知識の実践的な理解とその活用、探究に重点を置き、自らの健康課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を育てられるようにすることを重視している。 ○教科書の記述、学習内容の選択などにおいては、ヘルスプロモーション、共生の視点を基本に置いている。
特色	内 容 ＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○全てを1時間2ページで構成しており、統一感のある紙面構成、マークなどにより、全体の流れを見通すことができ、学習を進めやすいように構成されている。 ○確実に習得させたい内容については、本文で丁寧記述し、健康・安全についての基礎的・基本的な内容をしっかりと習得できるように構成されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○習得した知識を活用して課題に取り組むことを通して、生活実践に結び付く力を育てるとともに、思考力、判断力、表現力などを育てるように構成されている。 ○関連事項を脚注で取り上げ、知識の深化や興味・関心の高揚を図ると共に、疑問や発問に応えるように構成されている。 ＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○各項目で、学習内容の明示→導入課題→学習活動→まとめ→活用という基本構成が貫かれ、スムーズに学習を進めることができるように構成されている。 ○探究的な学習を行えるように資料を豊富に掲載している。児童の興味・関心に応えるテーマ、現代的な健康課題や話題を積極的に取り上げている。 ○章末に「学習のまとめ」を設け、習得の確認、知識の活用を踏まえて、生活行動への活用につなげることができるよう構成されている。 ＜中学校との系統性のある指導にするための工夫＞ ○5・6年の巻末で、「みんなの健康を守るさまざまな仕事」を取り上げ、キャリア教育にも活用できるように構成されている。
	資 料 ○科学的な理解に結び付く「見えないものを見える化」した資料やわかりやすい図解、解説であり、大切なことが一目瞭然でわかるように構成されている。 ○視覚的に捉えやすいように発色がよく、明るくきれいなカラーユニバーサルデザインを活用し構成されている。
	表記・表現 ○探究的な学習が行えるように記号を活用し、学習の流れがわかりやすく工夫されており、資料も豊富に掲載された構成である。 ○大きめのA4サイズで印刷が鮮明で、全ページカラー刷り、色彩は目にやさしくソフトな構成である。
総 括	○全体としてよくまとまっており、保健学習と身近な生活を関連づけて学習できるように明確に意識されており、使いやすさとわかりやすさが感じられる。 ○児童の日常生活と関連した内容や今日的な課題を積極的に取り上げ、作文や事例を活用し、身近な問題として実感し取り組むことが出来るようになっている。 ○課題解決的な学習を展開させ、課題の把握や調べ方、まとめ方を示すことにより、健康安全についての基礎的・基本的な内容を習得できるように工夫している。